

結婚・出産・子育てに関する
グループインタビュー
報告書

平成 31 年 3 月 29 日
株式会社エルアイズ

目次

1. 調査概要 3
2. 調査風景 5
3. 参加者プロフィール 6
4. 調査結果
 - A 結婚を希望する独身者グループ 8
 - (1) 結婚に至っていない理由・背景
 - (2) 結婚の阻害要因の深掘（資料提示）
 - (3) 親からのプレッシャー、友人への憧れ、肩身の狭い思い、将来の不安
 - (4) 札幌市の未婚者の割合が高い理由や出生率が低い理由（資料提示）
 - (5) 結婚を促進すること、札幌市の支援事業や民間の婚活事業について

 - B 結婚を希望しない独身者グループ 23
 - (1) 結婚をしなくていいという考えに至った経緯や背景
 - (2) 恋愛を阻害する要因についての深掘（資料提示）
 - (3) 親からのプレッシャー、友人への憧れ、肩身の狭い思い、将来の不安
 - (4) 札幌市の未婚者の割合が高い理由や出生率が低い理由（資料提示）
 - (5) 恋愛を促進すること、札幌市の支援事業や民間の婚活事業について

 - C 有配偶者で子どもを希望する既婚者グループ 31
 - (1) 希望の子ども数に至っていない理由
 - (2) 希望の子ども数に至っていない理由の深掘（資料提示）
 - (3) 親からのプレッシャー、友人への憧れ
 - (4) 札幌市の未婚者の割合が高い理由や出生率が低い理由（資料提示）
 - (5) 希望の子ども数を達成するには

 - D 有配偶者で子どもを希望しない既婚者グループ 55
 - (1) 子どもを持たない考えに至った経緯
 - (2) 親からのプレッシャー、友人への憧れ、肩身の狭い思い、将来の不安
 - (3) 札幌市が夫婦のみ世帯の割合が多い理由（資料提示）
 - (4) 夫婦のみの世帯が子どもを希望するための条件

 - 全グループ共通の質問項目の結果 60
 - (1) 参加して楽しかったイベントや場所、リーチメディア
 - (2) 札幌市からのイベントや補助金のお知らせに適するメディアについて
5. 総括 73

1. 調査概要

(1) グループ分けと参加者人数

男性 23 名、女性 26 名、合計 49 名

	年齢	男性	女性
A 結婚を希望する独身者	18-35 才	5 名	4 名
	36-49 才	3 名	4 名
B 結婚を希望しない独身者	18-49 才	4 名	3 名
C 有配偶者で子どもを希望する既婚者	20-35 才	4 名	7 名
	36-49 才	5 名	5 名
D 有配偶者で子どもを希望しない既婚者	20-49 才	2 名	3 名

(2) 実施日時

※全て平成 31 年

	年齢	男性	女性
A 結婚を希望する独身者	18-35 才	3/10(日) 13:30-15:30	3/9(土) 10:00-12:00
	36-49 才	3/11(月) 19:30-21:30	3/13(水) 19:30-21:30
B 結婚を希望しない独身者	18-49 才	3/15(金) 19:30-21:30	3/17(日) 10:00-12:00
		3/16(土) 13:30-15:30	
C 有配偶者で子どもを希望する既婚者	20-35 才	3/9(土) 13:30-15:30	3/2(土) 13:30-15:30
	36-49 才	3/14(木) 19:30-21:30	3/3(日) 10:00-12:00
D 有配偶者で子どもを希望しない既婚者	20-49 才	3/17(日) 13:30-15:30	3/16(土) 16:30-18:30
		3/18(月) 18:30-20:30	

(3) 実施方法

- ◎上記グループごとに実施、各グループにはインタビュアー1名と書記1名を配置した。
- ◎グループにできない場合は参加者2名、あるいは1名でのインタビューを実施した。
- ◎集合後、開始時間まではペーパーアンケートを配布し、利用メディアや札幌市がお知らせをする際に適していると思うメディア、またどのようにお知らせをするとよいかを回答して頂いた。
- ◎冒頭に調査目的と、グループでどのように発言して頂きたいかを説明した。
- ◎インタビュアーがインタビューフローに沿って時間ごとのテーマを呈示し、参加者同士でテーマについて自由に話し合ってもらった形式を主とした。
- ◎独身者グループに対しては結婚、既婚者グループについては出産・子育てについて主にうかがった。
- ◎結婚・出産に対する阻害要因とその緩和・解消になることについては、札幌市の意識調査結果の表

を配布し、その項目ごとに深掘りするように質問した。

◎札幌市が他市と比べて未婚率が高い理由、出生率が低い理由についても考えを聴いた。

◎親のプレッシャーや友人への憧れについても全グループで質問した。

(4) その他

◎札幌市のアンケート回答者のうちグループインタビュー参加希望者を優先して参加者を選出した
が、希望者が少ないグループについては、受託企業のモニター組織での募集と、提携モニターパネル
での募集、また機縁法にて人数を補充した。

◎参加者には謝礼として 5,000 円を現金で差し上げた。

2. 調査風景



3. 参加者プロフィール

独身者グループ

グループ		年齢	勤務形態
A 結婚を希望する独身者	男性 18-35 才	18	学生
		24	正社員、フルタイム、IT 企業
	1G	19	フルタイム、週 6 勤務、調理師
		31	正社員、教師（部活があるので土日も勤務）
		18	学生
	男性 36-49 才 3G	37	契約社員、月 20 日、倉庫作業員
		45	正社員、週 5 日、プログラマー
		44	学生、就労移行支援に通ってコンピュータの勉強
	女性 18-35 才 2G	25	契約社員、週 5 日、コールセンター
		21	学生
		22	正社員、フルタイム、レンタカー本部事務
		26	正社員、フルタイム、幼稚園教諭
	女性 36-49 才 4G	42	契約社員、フルタイム、コールセンター
		43	アルバイト
		45	派遣社員、週 3 勤務、教育関係
		40	正社員、フルタイム
B 結婚を希望しない独身者	男性 18-49 才 5G	28	正社員、フルタイム、通信系機器の設計
		39	契約社員、1 日 4 時間週 5 勤務、コールセンター
		22	学生
	女性 18-49 才 6G	46	無職
		46	正社員、フルタイム、福祉関係
		24	フリーランス、アニメ制作
	20	専門学校生	

既婚者グループ

グループ		年齢	出身地	勤務形態	子どもの性別と年齢
C 有配偶者 で子どもを 希望する 既婚者	男性 20-35 才 7G	34	東京	正社員、フルタイム、製薬会社	長男 3 才
		35	道南	正社員、フルタイム、WEB 制作	なし
		29	札幌市	正社員、フルタイム、職業大学の職員	長男 5 才、次男 3 才、三男 0 才
		32	帯広	自営、ほぼ休みなし、造園業	長男小 2、長女 小 1、次女 2 才
	男性 36-49 才 9G	41	札幌	正社員、フルタイム、ビルの管理業務	長女 4 才
		49		自営業、365 日 24 時間勤務、写真家	長女 10 才
		40	札幌	正社員、フルタイム、IT 系エンジニア	なし
		37	札幌	正社員、フルタイム、銀行	長女 5 才、 次女 4 才
		36	札幌	正社員、不定休週 5 日、食肉系	長女 6 才、 長男 4 才
	女性 20-38 才 8G	33		1 年契約非常勤、時間給	長男 1 才
		30		パート、週 2 日	なし
		21	函館	契約社員、フルタイム、コールセンター	なし
		34	札幌	専業主婦	長男 3 才
		33	札幌	パート、週 4 日、入力業務	長男 4 才
		35		パート、週 4 日、コンビニ	長女 4 才
		31	道南	パート、週 5 日、歯科	長男 10 才、 次男 3 才
	女性 36-49 才 10G	42	札幌	正社員、週 5 日、営業事務	長女 17 才
		37	札幌	専業主婦	長男 2 才
		44	札幌近郊	正社員、フルタイム、看護師	長女中 3、 次女中 1
36		札幌	パート、週 3 日、ファストフード	長女 4 才	
38			専業主婦	長男 8 才、 長女 6 才	
D 有配偶者 で子どもを 希望しない 既婚者	男性 20-49 才 11G	39	札幌	公務員	なし
		42	釧路	正社員	なし
	女性 20-49 才 12G	26	札幌	派遣社員、コールセンター、週 4 日	なし
		39	名寄	パート、週 5 日、調理関係	なし
		45	地方	教員	なし

4. 調査結果

A 結婚を希望する独身者グループの結果

(1) 結婚に至っていない理由・背景

ご自分が結婚に至っていない理由について聞いた。

<男性グループ>

◎結婚したい気持ちがそれほど強くない傾向で、結婚できたらいいなと思っている程度。結婚に至っていない理由については、結婚するには今の収入が低いとか、仕事が忙しくて時間がとれない、人見知りであること、出会いがない、遊んでいる方が楽しいなどがその要因としてあげられた。そんな状態で結婚して、周りで聞くような失敗をしたくない気持ちから、結婚の意向度が低くなっているようだ。

<女性グループ>

◎結婚の意向度はまちまちだったが、仕事のキャリアを積みたいとか旅行や遊びをまだ楽しみたいことが結婚に至っていない主な理由だった。収入の少なさを上げる人は男性よりも少なかったが、非正規のため収入が安定しない、貯金ができていないという理由も。その他、親が自分を手放したくない、長女なのでいずれは家に戻らなければならない、婦人科系の病気があるために気が引けるなどという理由もあげられた。

◎また、独身同志の姉妹で同居して生活費をシェアし、海外旅行を楽しんでいる参加者が36才以上のグループで2名いた。結婚相手よりも優先したい姉妹というパートナーがあり得ることをうかがえた。

男性 18-35 才	・ 将来的にできればいいかなくらいにしか今は考えていない。
	・ 将来的に漠然と30になるくらいまでに、仕事が忙しくなってきたら仕事が第一優先、資格を無事取得できて給与的にも年収300万を超えて、自分に心の余裕、時間や経済的に余裕が持てるようになれば。
	・ 結婚できたらいいなとは思っている。最近職場の人に1度告白したが断られた。彼女が辞めてしまったし、もう脈がない。
	・ いい人いたら、したいなぐらいの感じ。年齢も年齢なのでこのまま1人もありえるかな。結婚に至らない理由はまず出会いがない、そういうきっかけがない。性格的に人見知りで声をかけられない。交際して半同棲になった人もいたがいざ結婚となると親とかも全部つながることを考えた時に「うーん」というふうになった。
	・ 将来的にできればいいかなぐらい。
男性 36-49 才	・ 賃金がよくないのでできない。
	・ 結婚したいという気持ちはそんなに強くない。
	・ 人付き合いが苦手だから。
	・ 縁があればというレベルです。無理やりして失敗したくない。

	<ul style="list-style-type: none"> ・周りは結婚して大変だと聞く。 ・社会的な事と言えばそんなに賃金が良くないっていうのがある。 ・周りは20代の方が多いのでそんなに結婚しなくても気にはしない。自分より年上の人には完全に諦めている。20代後半とか30代前半とかで焦っているっていう人の話は聞かないですね。昔はいたけど。 ・遊んでいるほうが楽しいって人が多いです。
	<ul style="list-style-type: none"> ・結婚していた時は生活が不安定で障害もあって体調も良くなって、それで離婚してしまったという経験がある。安定していればいい相手がいれば、すぐにでも結婚したい。 ・体調は安定してきたが仕事の方が、なかなか就職が見つからない。 ・昔みたいに公共事業がもっとあれば良いと思う。 ・結婚していない人に限って言えば生活が不安定な人が多いですね、仕事がうまくできないとか。 ・収入が少なく安定して生活できないから、結婚したら収入が少なく重荷になるっていう人もいます。
女性 18-35 才	<ul style="list-style-type: none"> ・結婚したいがまだ自分が正社員じゃないことが引っ掛かっている。 ・親が私を手放したくない、嫁に行かせたくない。 ・ある程度は貯金しておかないと、と思うが準備ができていない。
	<ul style="list-style-type: none"> ・学生なのであと5年くらいで出来たらいいなって感じ。 ・周りも就職して自分のキャリアを積みたいとか、せつかくいいところに就職して寿退社とか出産とかで退社するのは嫌だから数年はいいかなって人が多いですね。
	<ul style="list-style-type: none"> ・今おつきあいしている人とお互い親にあいさつしている段階。 ・自分も社会に慣れてきて、もうちょっとしてから、みたいな感じで仮に今の人とお別れしたらしばらくはいいかなって。 ・周りもまだまだたくさん遊んでいたいよねって人が多い気がする。
	<ul style="list-style-type: none"> ・今仕事を始めて4年目でやっと慣れてきて自分の力でできることも増えて充実してきた。ここで結婚とか子どもが生まれると家庭の事もやるとなると仕事が今みたいにできなくなるだろうなというのが引っ掛かる。 ・周りは結構結婚したい人が多いが職業柄（幼稚園）出会いがあんまりない。
女性 36-49 才	<ul style="list-style-type: none"> ・基本仕事が好きなので1人で生活できるレベルで楽しんでいたい。 ・稼ぎのいい妹と同居しており、妹の転勤についていくのでお付き合いしていても別れることになる。長女なのでいずれは実家に帰らなくてはならないということもある。 ・今付き合っている人は一回り年下で、遠距離で、お互い一人っ子なのでいろいろな面で結婚はないかな。
	<ul style="list-style-type: none"> ・3人の男性とトータルで12年同棲したが、自分が自営業で男性よりお金を持っていたので強気なところがあり、男性は男性で自分が！というところがあるので結婚したい波が合わず誰とも籍を入れることにはならなかった。 ・婦人科系の病気をしたので年をとるにつれ、相手の親御さんやご家族に申し訳ないなっていう気持ちもあり引き気味になっています。
	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに全く興味がなかったので40才までは結婚しなくなかった。付き合った人も子ども産んでほしそうだったので別れた。今付き合っている人とは好きだから結婚しても

<p>いいなと思うが喧嘩別れしたままずっと連絡をとっていない状態。</p> <ul style="list-style-type: none"> 同居している妹も独身なので2人で海外旅行に行ったりしてその方が楽しくて。 早くに家庭を持つというのが当たり前の価値観で育ったので20才で結婚した。離婚してその後結婚に至っていないのは、一人の気楽さを味わって家族の縛りもなく、結婚の熱意が無くなった。しかしやっぱりこのまま一人というよりは何かあった時に支えてくれるとか重たいモノ持ってくれるとか。素直に甘えられる存在と日常的に同じ空間で寄り添いたいという気持ちの結婚はありかなと思う。

(2) 結婚の阻害要因の深堀 (資料提示)

札幌市の意識調査の「結婚していない理由」各項目について深堀をした。

表 6-1-1 現在結婚していない理由 (NA) 【未婚者限定、性・年代別】

	N	適 当 な 相 手 に め ぐ り 合 わ な い か ら	自 由 や 気 楽 さ を 失 い た く な い か ら	結 婚 後 の 生 活 資 金 が 足 り な い と 思 う か ら	雇 用 が 安 定 し て い な い か ら	結 婚 の 必 要 性 を 感 じ な い か ら	結 婚 資 金 が 足 り な い か ら	趣 味 や 娯 楽 を 楽 し み た い か ら	異 性 と う ま く つ き あ え な い か ら	ま だ 若 さ ず ぎ る か ら	仕 事 が 忙 し ず ぎ る か ら	仕 事 を 優 先 し た い か ら	住 宅 の め ど が 立 た な い か ら	親 や 周 圍 が 同 意 し な い か ら	結 婚 す る つ も り は な い か ら	そ の 他	無 回 答
未婚 全体	(458)	50.4	27.5	28.4	15.9	15.1	18.3	22.7	16.2	14.4	13.1	9.0	4.1	2.0	12.4	8.3	2.8
# 男性 全体	(182)	46.2	28.6	36.3	24.2	14.6	25.3	24.7	21.4	15.9	12.6	8.2	6.0	0.5	18.1	4.9	2.2
# # 20代	(102)	40.2	28.4	34.3	25.5	12.7	23.5	25.5	16.7	28.4	10.8	10.8	5.9	1.0	19.6	5.9	1.0
# # 30代	(80)	53.8	28.8	38.8	22.5	17.5	27.5	23.8	27.5	0.0	15.0	5.0	6.3	0.0	16.3	3.8	3.8
# 女性 全体	(276)	53.3	26.8	23.2	10.5	15.2	13.8	21.4	12.7	13.4	13.4	9.4	2.9	2.9	8.7	10.5	3.3
# # 20代	(174)	44.8	21.8	27.0	12.1	13.8	16.1	23.0	11.5	20.7	14.4	13.8	3.4	1.1	8.0	11.5	4.0
# # 30代	(102)	67.6	35.3	16.7	7.8	17.6	9.8	18.6	14.7	1.0	11.8	2.0	2.0	5.9	9.8	8.8	2.0

1位 2位 3位

① 適当な相手にめぐり合わないから (意識調査「出会いのためにやりたいこと」の各項目について)

<男性グループ>

◎結婚したいけれど積極的に行動するほどではなく、周りも同じような人が多いため焦りがなく、若いうちは自然に出会えると思っていたり、仕事で忙しくて出会いのために何もしない。女性といざ出会ってもどのようにコミュニケーションすればよいのか自信のなさもうかがえる。また友人の紹介はダメになった場合に困るので消極的になってしまうとのこと。

<女性グループ>

◎社会人になると出会いの場が少なくなってしまう。しかし、出会う方法について友達や職場の紹介は断りづらく、気を使わせるのも嫌。婚活アプリやネットは事件などがあるので怖い。合コンも時間とお金の無駄などという理由で利用しない人が多そう。一方、友人の成功を見て婚活アプリで彼氏を作ったり、「だまっていたって王子様は家にピンポンって来ないので」と婚活イベントに積極的に参加する人も。

<p>男性 18-35 才</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・結婚したいけど、自分から動く必要があるほどとは思っていない。 ・積極性がないから。出会うために特に何もしないっていう人たちはその友人たちも特に何もしない人が多くて、結局その人たちで遊ぶから危機感とか焦りが無くなる。それで二極化しちゃっているのかな。 ・若いうちは自然に出会えると思って何もなくて、30代になって焦りだして合コンなどに行くのかな。 ・特に何もしないのは、自分みたいに結婚できたらいいくらいの人が結構多いからでは。 ・結婚にいいイメージがない。ネットで結婚は墓場とか書いてある。 ・友人に紹介するのってハードル高い。紹介してくれたのにダメだった時とか自分の好みじゃなかった時に困る。 ・若い人ほどまだ時間があるから待っていればその内自然にって考えている。
<p>男性 36-49 才</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に行動しないから出会わないと思う。女性がいる場に行ってもコミュニケーション能力がなかったりでうまくいかない。 ・他人と出会う機会が職場以外で思い浮かばない。出会う場に出たとしてもどうやって仲良くなれば良いかわからない。出かけて誰かと会っても仲良くなれない気がする。 ・勉強会等に出ても終わったらすっと帰る感じ。 ・仕事で疲れて遊びに行く余裕がない。 ・時間とお金があれば出かけて趣味のサークルなどで出会いがあると思う。
<p>女性 18-35 才</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の紹介は友達との関係を崩しかねない。サークルも入ったけど長続きせず。 ・周りでは、レンタルビデオ屋でナンパされて結婚した人がいる。婚活アプリで会える距離の男性と合ってお付き合いしている人を身近で見て、地域を絞ればそれもありかなと。最初はハードル高いなと思っていたが目の前で彼氏ができたとかってなると、もしかしたら自分もできるんじゃないかなろうかって思って。男性の方がお金を課金するシステムでやってみたら趣味の話で盛り上がり、この人なら大丈夫かなって会って実際にお付き合いに至っている。そういうところも0%ではないんだなっていうのはすごい改めて感じました。 ・周り的人で合コン開いたり、男女で遊びに行ったりすることもあるが、学生なので気楽に友達を作りに行く感覚に近い。 ・今付き合い合っている人は職場の人。 ・社会人になると出会いが本当になくなる。学生時代の付き合いがすごく大事でもあるが、就業時間が違ったりで全然会わなくなってしまう。 ・特に何もしない人が多いから巡り合わないのかなと単純に思う。 ・周りは合コン開いたりして婚活しているけどあまり続かない。 ・社会人になると友達すら作る場があまりない。 ・アプリはちょっと怖い。
<p>女性 36-49 才</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達に紹介頼むのは嫌だって断りづらい。職場も同じ。合コンはお金と時間が無駄に感じそうっていうリスク、ネットは怪しいから嫌だ。 ・自分が求める条件はシフトチェンジしていくから、都度都度、ドンピシャな人に出会

	<p>う確率と場所がそんなにないかなーと自覚している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紹介は40代になるとさすがにない。ネットは事件多くて怖い。趣味サークルで付き合い合ったことはない。斡旋所は高額、そんなお金あるなら旅行に行く。 ・だまっていたって王子様は家にピンポンって来ないしそれは夢見がちすぎとっているので現実リアルに考えると婚活パーティなど活動する。ホワイトキーっていう合コンの大きい会社でやる100対100のパーティなどに行っていた。今は年取ったので男性の年齢枠も上がってしまったが私が若い方がいいので最近は行っていない。
	<ul style="list-style-type: none"> ・友人に頼むのは45才なのでおこがましい。日本でダメならと思ってオーストラリアの婚活に申し込んだら通らなかった。 ・資格取得もないし親もいないしお見合いもなくて。 ・ネットの婚活は怪しい人がいそうで嫌。民間の斡旋会社はふん切りがつかなくて行かない。
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きなことにお金を使っていて、もともと出会いを求めてない観が見るからにわかっちゃう。全体的に積極的に求めていないから出会いを求めず、自分にマッチする人を見つけられなくて「適当な人がいない」になっちゃうのかな。 ・紹介は何かあった時に広まるのも嫌なので頼まないし言われても逃げる。パーティはサクラなど悪いイメージ。婚活サイトは事件あるので絶対却下。資格取得では目的が違いうし、趣味サークルは世界が狭いので付き合いったり別れたりでみんなに気を使わせたくないし自分たちも嫌。

② 結婚後の生活資金が足りない・雇用安定・結婚資金

◎男性・女性に共通して見られたのは結婚後のお金がどれくらいかかるのかが漠然としており、どれくらい補助金があるのかも知らないこと。

<男性グループ>

◎プライドもあるので自分の稼ぎで養いたいのが、低賃金であることや、雇用が安定していないこと、札幌では収入を増やせる見込みがたたないことが結婚の阻害要因となっているようだ。女性側もこのような男性の心理を理解しているようだ。ダブルインカムという解決策に対しては男としてのプライドが許せないという意見や両方低賃金なら厳しいという男性の意見に対し、それは当然だが育児も家事もすべてと考えると自信がなくなるという女性の意見もあった。

<女性グループ>

◎35才以下のグループでは、かかるお金といえば結婚式。親の結婚式を挙げてほしいという夢をかなえた方がいいのか、派手にしたくない自分の意思を通すのか悩んでいる人もいた。

男性	-
18-35才	<ul style="list-style-type: none"> ・結婚・子育て・共働きに対して行政支援がどれくらいもらえるのかわかっていない。
	<ul style="list-style-type: none"> ・結構長く付き合っているカップルはいるが、就職して1年くらいなのでまだお金に余

	<p>裕がない。1～2年くらいしたらするのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調理師だと低賃金なので養いたいけど養えるお金がない。 ・一番お金がかかることで思い浮かぶのは結婚式でウン百万。 ・結婚そのものにお金がかかるイメージはない。家庭を持つと子どもの学校とかでいろいろお金が必要になる。ダブルインカムで世帯収入が増えることは家庭を持つことに対して後押しにはなるかもしれないが結婚には結びつかない。 ・ダブルインカムという解決策についてはそこは男のプライドが許さない。どういう状況であっても男だっていうのを持っているのが男性だと思う。女の人よりも上の位置にいたいのだがお給料低いとか正社員じゃないとか安定性がないとかいろんな事情から理想の自分と離れてしまって自信がなくなり男性が弱くなっている。
男性 36-49 才	<ul style="list-style-type: none"> ・年収が低いというのがかなり大きいと思う。共働きだとしても二人とも最低賃金だったらかなりきついと思う。 ・行政とかはやってくれることに限界があるし、この先雇用が安定するとは思えない。この後どんどん荒れると思う。 ・結婚資金は過度にやらなければ、どうとでもなると思うし、結婚後のやりくりは何とかなると思う。 ・生活資金が具体的にどれだけ必要かわからないけど、一番恐れているのは自分が自由に使えるお金が少なくなる事。 ・今は正社員でもいつクビになるか分からないのでどこまでが安定していると言えるのか。非正規雇用よりはいいが。昔、勤めていた会社がつぶれたことがあるので、不安な気持ちはある。 ・年収を高くしたいなら東京へ行かなければならない。年収の上限を見ると東京とは100万以上開きがある。 ・結婚後のお金については取り決めによってはお小遣い制にして自由に使えたりとかあると思います。ただ、根本的に収入が少ないそれも難しい。 ・札幌の会社でも賃金の高い仕事ができるように、札幌市にお金を出してもらおうとか。 ・石狩市にデータセンターが出来たり、東京からこっちへ来るという会社もあるので仕事のやり方次第だとは思う。そのベースを作るためにも会社を育てるお金の回し方をして欲しい。
女性 18-35 才	<ul style="list-style-type: none"> ・親の結婚式を挙げてほしいという夢をかなえた方がいいのか、派手にしたくない自分の意思を通すのか悩んでいる。 ・時給制の仕事なので、インフルエンザにかかって1週間欠勤すると大打撃になる。月給制じゃないと不安。月によっては少ないお給料なのでそもそも貯められないというか、貯めるのに限界があることも日々の悩み。 ・友達が親からも援助してもらってやっとそれなりの式を挙げたのを見て、すごいお金がかかるのかなって。貯金してみたりしているがやっぱり漠然としてとにかくお金がいるんだろうなって。 ・結婚式はご祝儀とかで戻ってきたりもするのでそこまで高望みしなければいいんじゃないか。 ・幸い相手が一人暮らしをしていて家具も一通りそろっているので引越だけで済む。

	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的に結婚を考えていなかったなのでお金のことも考えたことがなかった。
女性 36-49 才	<ul style="list-style-type: none"> ・私が今男だったら結婚したくないだろうと思う。会社がどうなるかわからないし、男としてのプライドだったら女の分も稼ぎたいのは山々だけど、女の人も働いて、だけど半分出してとは言えないみたいな。
	—
	<ul style="list-style-type: none"> ・私も 30 才くらいまで親と暮らしていたのでお金の心配がなく、経済的なことは考えたことがなかった。男の人も家を守っていくとかそういう気持ちも薄れているのでは。
	<ul style="list-style-type: none"> ・コールセンターで働いていた時は若い男の子もいっぱいいたが、給料が安いので自分の好きなことにプラスして家庭を持つとか彼女にお金を使うとかやっぱり難しい。 ・結婚していない人達は、あとどれくらいあればいいのかという不安の方が大きいのでは。今のスタイルを崩さずに結婚しようと思うから。相手とどこまでお金の価値観を合わせて我慢できるかとか共有できるかという部分が思い描けないから不安。 ・家族を持つ難しさは、お金云々じゃなくて自分の将来の先行きの安定感。雇用が安定していない部分も含めてGOサインが出せるほどの自信がないから全部につながっているのでは。 ・女の子たちも共働きじゃないとやっていけないのに結婚と育児と全部を賄っていけるのか、その自信がなければ結婚しなくてもいいんだったらって感覚にもなってくるのかな。

③ 自由や気楽さを失いたくない・趣味や娯楽を楽しみたい

<男性グループ>

◎結婚すると子育てなどで自分の時間がとれなくなるが、独身は1人の気楽さで、自由に、好きな事に打ち込める。相手が自分の趣味や娯楽に理解がないと結婚の壁になると思うようだ。

<女性グループ>

◎一方、趣味の合う人、趣味に理解がある人と結婚すれば障害にはならないという意見もあった。

男性 18-35 才	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てで自分の時間が取れなくなる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・まだ若いので自分のやりたいことをやっていきたいと思っている。結婚して一緒に生活すると本当に完全なる自由ではない。
	—
	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の自由。好きな時に起きてみたい、自分で時間を使えるという。
	—
男性 36-49 才	<ul style="list-style-type: none"> ・趣味の合う人を見つければ何とかなりそう。
	<ul style="list-style-type: none"> ・人と一緒にいるのがストレスに感じる事が結構多いので、自由や気楽さは一番気にする。趣味とか合わせられるのならそれはそれでいいし、趣味が違って横で見ているのは面白いというのもそれで良いと思う。
	<ul style="list-style-type: none"> ・共通の趣味を持っていれば、お互い楽しめると思う。

女性 18-35 才	・アーティストのライブを追っている時が一番ストレス発散で楽しめるが、相手がいることで制限されちゃうんじゃないかという不安はある。趣味とか娯楽について理解のない人だと結婚の壁になっちゃうと思う。
	・女性ばかりが家事育児ではないことをわかってきて、自由な時間をお互い持てれば結婚してもそんなに縛られてる感じはしないのではないか。
	・理解がある人と結婚できればそこまでネックにはならないんじゃないかなって気はします。
	・夫婦だけだったらお互いの理解だけでなんとかなるが、子どもができる子ども優先になると思うのでそのハードルもあるのかな。
女性 36-49 才	・妹と海外旅行に行くために仕事して、休みの日は自分一人で楽しめばいいから特に誰かに何か気を遣うのは嫌だ。
	—
	・妹と2人で海外旅行に行ったりしてその方が楽しくて。妹も結婚しないですね。
	・1人だと気楽さ、自由度、好きなことに打ち込める、家族の縛りでどうのこうのがない。

④ 結婚の必要性を感じない

◎結婚の必要性を感じないのは、収入も安定して1人で生きていけるから。結婚は自分の時間や気楽さを失うというデメリットがある。デメリットに比べてメリットが少ない、子どものいる生活を想像できない・嫌いなど家庭を築くことや子育てに対する自信のなさなどをあげる男性に対し、女性は自分の収入の少なさをカバーするために比較的必要性を感じているようだ。

◎男性が結婚の必要性を感じるのは、病気で倒れた時、子どもを持ちたいからということがあがった。女性が必要性を感じるのは、収入のこと以外では、財産を受け継ぐ、結婚しないと利用できない制度がある、身元引受人など世の中も配偶者を求める、体が動かなくなった時に不安、といったことだった。

男性 18-35 才	・収入も安定して1人で生きていける。かわいい奥さんを持つというためなら恋人のままでもいい感じ。
	・メリットと天秤にかけてしまう。どうしてもメリットのイメージがなくてデメリットの方が強い。自分の時間や気楽さを失うというデメリット。ダブルインカムで一緒に生活することで公共料金とか一緒になるのはメリット。
	・子どもと触れる機会がほぼないので想像が全くできない。
	・職場の先輩の話や家庭を持つことにあまりいいイメージがない。たまに手をつないでいる老夫婦を見ると憧れるが。
	・絶対しなきゃいけないものだと思っていない。年取った時に1人だと淋しいから結婚したほうがいいよと言われるが1人が嫌いじゃないのでそれを言われても別に結婚したいと思わない。

	<ul style="list-style-type: none"> ・職業柄たくさんの家庭を見ている。自分がちゃんとした家庭を築いてちゃんとした子どもを育てられる自信があまりない。
	—
男性 36-49 才	<ul style="list-style-type: none"> ・たとえば病気で倒れた時とかずっと一人だと耐えられないので、恐怖は上がっていつている。どういう点で必要性は感じている。 ・一人より二人の方が楽しいときもあるから、そういうのが続く人がいればいいなという願望はある。 ・子育てをしてみたいので、子どもが欲しいと思うので結婚はしたい。
女性 18-35 才	<ul style="list-style-type: none"> ・自分は実家にだれかと結婚して住んで代々残してくれたものを受け継げるし寂しくない、子どももほしいと思っているので結婚は必要と思っている。 ・周りでは、自分の生活リズムを狂わされたくない、子どもが嫌い、親戚増えて人付き合いが複雑になるのが嫌、という人がいる。 ・結婚していないと利用できない制度もあるのでパートナーでいるよりは結婚した方がいいのかな。子どもも欲しいし。 ・20代後半～30代になると自分の仕事も立場的に上になってきて自分で稼いで十分自立して生活できて充実してって人も結構多い。 ・結婚して面倒臭くなるよりはって。女性だと名前を変えなきゃとか男性だと養わなきゃいけない重圧感だとか。 ・老後のことを考えると必要。女性は男性より収入が少ない人が多いのでそういう面で必要。一緒にお金貯めて家を建てたり子どももほしいといった面。 ・老後に体が動かなくなった時に不安なのでそういうことを考えると結婚はしたいなあと思います。
女性 36-49 才	<ul style="list-style-type: none"> ・メリットがない。いまいち。 ・個人的には結婚したい方なので必要性あり。墓守を1人でしているということもある。 ・前は正社員だったが今は派遣でお金がなくなってくると必要性が出てくる、それだけ。 ・身元保証人だったり世の中も配偶者を求める。金銭的にもお互いにカバーしあっているから必要性はある。結婚はしたいけれども今はいろいろあって先延ばしにしていたらこんな年になってしまったとか、良い出会いがなかったとかいう方が多いのでは？

⑤ 異性とうまく付き合えない（意識調査「交際への不安」の各項目について）

<男性グループ>

◎異性とのコミュニケーションの経験不足から、出会った後の進め方がわからないという課題があがった。ノウハウを学びたいようだ。出会っている人はどういうところで出会っているか聞きたいとの声も。

<女性グループ>

◎35 才以下グループで、男性と仲の良い友達以降の進展がない、という要因があがった。36 才以上のグループからは道民性として女性が強く、男性が弱い・消極的というような特徴も指摘された。

男性 18-35 才	・会ってはいるけどその先に対する不安がある。
	—
	・合コンとか行っても消極的な人が多いと思う。交際までは行きづらい。 ・休みの時は自分に使いたいので合コンとかにあまり行こうと思わない。
	・そもそも出会いの場所がないっていうのが自分には該当する。 —
男性 36-49 才	・経験不足とコミュニケーション不足で集約できるのでは。苦手っていうのは経験や練習が不足していると言われたことがあるので。 ・コミュニケーションの授業ってないのか？
	・出会ったとしても進め方がわからない。特に何もしなくてもいいなら良いけれど。 ・出会っている人はどういう所で出会ってるのか聞きたい。
	・コミュニケーションの取り方など学校で教えてくれたらいいのに。
女性 18-35 才	・自分に自信がないタイプで、距離感、声のかけ方がわからないしそこからどう発展していくかもわからなかった。今は好きなことを通して仲良くなってというパターンがわかってきた。
	・自分も周りも自然に交際を進めている。
	・異性と仲良くなる場所まではいけるんですけど、そこで止まっちゃう。恋愛対象として見れないみたいなそんな感じ。
	・一緒に遊びに行ってもそのまま終わっちゃったり。
女性 36-49 才	—
	・道民性的に女性の方がはっきり言う人が多い。男子は弱めな子が多い。やんちゃな男性は早く結婚して子ども作って家庭を持っている人が多く、余っている男子は決断力がないとか、それこそずっと実家暮らしの男性だったり趣味で車とかにお金をかけてきてっていう人が多い。北海道の男子は。
	・北海道の男性はしゃべらない感じがします。グイグイ来ない男性ばかり。 ・今の若い子たちは男女関係なくフランクな付き合い方が普通になっていて、異性間の付き合いとなるとうまくいかないのではないかな？

(3) 親からのプレッシャー、友人への憧れ、肩身の狭い思い、将来の不安などについて

◎両親からのプレッシャーや肩身の狭い思いは性別年代にかかわらず、ない場合が多いようだ。

◎友人についてはうらやましくない。焦る人もいれば焦らない人もおり、それぞれという感じ。

男性 18-35 才	・自分の好きなようにしろと言われている。
	・全く言われない。
	・祖父の店を継ぐ予定。祖父が周りのお客さんに言いふらしているのでもうプレッシャーはあるが、子どもに関しては親からも言われない。
	・周りの友達は結婚している人がたくさんいて、焦りとかうらやましいとか一瞬あったから結婚に向けて動いたんだと思う。それも終わって今は焦りもない。今は祝福の気持ちしかない。
男性 36-49 才	・祖父が不動産会社を経営していて、お前が彼女連れてくるの楽しみだとか言われるが、別にプレッシャーに感じない。病院を継ぐために医者になって子ども作れと毎日言われている友達がいるが、そんな家がまだあるんだなぐらいの感じ。
	・3人兄弟で、上2人も結婚していますが、少しあります。
	・周りが結婚すると羨ましくはないけど少し焦る。
	・30代は親や親戚が集まった際「いつまで独身なの？」と詰め寄られる事が結構あって、しつこいなと思っていました。
女性 18-35 才	・周りは結婚が大変だっという話が多いのでうらやましくはない。
	・一度結婚しているのでないです。
	・友人の結婚については良かったね、くらいで私もいつかはなっという希望だけで終わる。
	・母が自分が産んだ子が産んだ子しか愛せないという話をしていた。私は4兄弟で一人だけ女なので私は産まないといけないのかとなんか暗に。祖母からも静かなプレッシャー。
女性 36-49 才	・自分は全くない。孫は抱っこしたいって言われるのでいつかは産みたいなって感じですがプレッシャーになるほどではないです。
	・周りは親とか上司から言われている人はいる。
	・プレッシャーを感じたことはない。好きにしなさいって。
	・結婚式に参加してステキでいいなっという憧れは持つ。今は焦っていないがどんどん親しくしてる友達が結婚したらその時は焦ると思う。
女性 36-49 才	・末の妹に子どもがいっぱいいるので上2人は自由で大丈夫。周りは離婚している人の方が多くて幸せな人は本当に少数しかいないのでなんにもうらやましくない。
	・田舎ではみんな早く結婚するので親に悪いなと一瞬思った。特に親からまだ結婚しないの？とは言われたことはない。田舎の友達からはなんで別にブスでもないのに結婚できないんだろうねとかこの年で結婚していないのはカタワと一緒にだよねと言われた。嫌だなと思うがプレッシャーとは感じない。
	・父のみ存命だが何年も会ってなく別に何を言われることもない。
	・親のプレッシャーはなかった。

(4) 札幌市の未婚者の割合が高い理由や出生率が低い理由（資料提示）

札幌市の特徴として、以下の様な説があがった。

◎収入が低いので、札幌市内でマイホームを持つのは難しく、安くて補助もある札幌近郊の市に転出しているので出生率が低いのでは。

◎地方出身者が多いが、田舎に帰ると周りの結婚は早く、独身だといろいろ言われるので帰らなくなり、札幌市の独身率が高まるのでは。また、地方では女性の就職先が少ないので独身者が札幌に出る場合も多いのでは。

◎地方出身者が多く、友達も集まりやすく、一人でもなんでもできるのでプレッシャーがない。

◎札幌はある程度の収入は得られ、家でゲームをしたりして充実できるので外に出ない男性が多く、出会いが少なくなっているのでは。

◎北海道は家を継ぐ、守るといような家の結びつきがないので独身でも特に結婚を催促されない。

男性 18-35 才	— ・札幌って合コンとか街コンとか結構な頻度で開催しているイメージがあって、そういう機会が多いのに特に何もしないっていう人が多いのか、参加しても交際まで至らなかった人が多いのかというのが分からない。 — — —
男性 36-49 才	・出生率が低いのは、札幌市より周辺の市が、生活とか一切切の優遇をしてくれるケースがあり結構力を入れていると聞きます。 ・やっぱり収入が低いということはあるかなと思います。もし子どもを産んでから札幌市を出てった人が多いのであれば、札幌が住みにくいからっていう理由ですかね。市内でマイホームっていうのは高くて難しいので結婚して子どもがいる人は江別とかにマイホーム建てたりが多い。札幌近郊では住宅補助をやっているところとかありますから。 ・収入が低いので家を建てるなら郊外ということで北広島市や石狩市とかになっているのではないか。
女性 18-35 才	・一軒家があるのでそれをどうするかとかは話すが、後を継ぐみたいなことは必死に考えていない。 — ・札幌市はいろんな地方出身の方がいたりとか、一人でなんでもできちゃうから別に結婚しなくてもいいかなみたいな。友達同士で集まろうと思えば簡単に集まることができるから。 ・後を継ぐとかという話は全くない。
女性 36-49 才	・札幌って知り合いがいるかもしれない、っていう規模だから出づらいところもあって、稼ぎはそこそこもらえるから家でゲームしたり充実できるので外にでなくてもいいかなという男性が多いのでは。 ・田舎は結婚が早いから、札幌に出た人は戻ると（結婚のことを）言われるから帰りたくなくて札幌にとどまるから独身率が高いと思う。

	<ul style="list-style-type: none"> ・岩見沢でも結婚早い。
	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道は家の結びつきが無いから独身でも何も言われなから内向的な人も多くなっているのかな。
	<ul style="list-style-type: none"> ・私の田舎では女の人が働く場所がない。お兄さんや弟が家を継いだ時に結婚して家を出ないと居場所がなくなる。

(5) 結婚を促進すること、札幌市の支援事業や民間の婚活事業について

結婚の阻害要因に対して札幌市や民間の婚活イベントの資料を提示して、どうであれば出会いが増えるのか、交際まで発展できるのか等について聞いた。

◎結婚を促進すること

- ・恋愛・交際の仕方を学ぶことができる。(特に男性対象)
- ・仕事の効率化、給与アップ。
- ・ダブルインカムも双方の話し合いで決めて納得すれば良い。
- ・結婚手当的なことによるメリット。出産後の補助や家の補助。
- ・職場の研修。グループワークなどお互いの良いところを指摘しあって自信を持てるように。
- ・SNS なら身元が安心なので友達づてにネットワークをひろげる。

◎札幌市の支援事業について

- ・行政主催ということで安心感があり、ぜひやってほしい。
- ・婚活というよりも出会いの場として独身者が1人で参加するような形式がいい。
- ・複数回継続するような形式が良い。開始時間も早すぎるのでは(18:30)
- ・共通の趣味や興味、年齢でのマッチングができるような形式。
- ・話題を提供してくれれば参加しやすい。
- ・男女が混合でできるカーリング、フットサルのようなスポーツ。カメラ講座はスマホなら参加したい。インスタに使うならならスマホのカメラにしてほしい。食にかかわることが広く集められてよいのでは。コミュニケーション力アップセミナー。お寺の婚活イベント。夜景を見るイベント。成人式のような25才式、30才式。
- ・広報について、若い人はFacebook をやっていないのでインスタやLINEの方が良い。

男性 18-35 才	<ul style="list-style-type: none"> ・交際の仕方を学べることができれば。 ・同年代との出会いはいいが、知り合いグループで固まってしまうので、出会いの場としては、誰も知らない同志の方がいい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・教育で恋愛の仕方をやってほしい。 ・地方自治体とかの婚活イベントは最初から結婚に向けていきますみたいなカチカチでカタイメージが強いから気軽に行けない人もいるのでは。 ・街コンで男性の方が料金が低い場合疑問に思う。同じだと平等に出会えるんじゃないかと思う。参加しても1回きりで終わっちゃう人が多いと思うので複数回やった方がいい。また、このグループインタビューみたいに話題を提供してくれれば参加しやすい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・親からお見合いしろと言われてればする。 ・消極的なので街コンに行っても話せないのでもあまり行こうと思わない。ツーリングやスイーツを作る教室なら行くかも。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・街コンに行くのにもハードルが高い。バックヤードがわからない団体だと怖いので、公のそういう場があったらうれしい。独身の人たちが集まって話す機会とかパーティー。さっぽろ JOIN CAFE のイベントは結構全部興味がある。婚活っていうと結婚が前提みたいなので単純につながりを増やす場がほしい。 ・同じ作業をやるような場でもいい。人間性を見たい。婚活でなくて独身の人が集まる場がいい。一人でも参加できるような。 ・仕事量の縮小とか効率化、給料アップとか複合的に。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・カーリングとか男女関係なく遊べるスポーツ、流行りのスポーツがいいのでは。
<p>男性 36-49 才</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・収入が少ないのはどうにもならないから、出会いの場数増やした方が現実的。趣味が一致すれば収入少なくてもいけるかなと。Facebook から広がってイベントで知り合って結婚までいったケースもある。ダブルインカムも双方の話し合いで決めて納得すれば良いと思う。 ・さっぽろ JOIN CAFE について：若い人は Facebook をやっていない。インスタや LINE の方が良い。土日休みではないので日程が合わない。もっと知名度ある人を呼んだり、ベタなものじゃなく特定のミュージシャンを好きな人が集まるイベントをやったり。市じゃないと出来ないことと考えると、市の設備や施設を使うといい。イベントは初回は怖い時もあるので、札幌市でやっているという安心感は少しある。 ・民間の婚活パーティについて：行ったことはない。自分の理想より上の人があるとかわかっていけば参加するかも。 ・知り合いで収入少ない人がいるんですけど、共働きで何とかって人はいます。それは奥さんも納得してやっているのも良いなと思います。でも共働きだと奥さん側の負担が大きくなるのではないかなという不安はある。 ・さっぽろ JOIN CAFE について：カメラ講座でスマートフォンは不可ってというのは辛い。インスタ使うのであればスマートフォンを使いますよね。 ・ブラタモリでやっているような地理に関するものであれば参加してみたい。あとは図書館で 1 泊とか。東京では本屋さんで 1 泊するというツアーがあるんです。最近できた創成ビル使って何かできないか？ ・そもそもイベントで仲良くなったことが今までない。 ・30 代後半の時にお見合いパーティー行ったことがあるが、周りは 20 代で浮いちゃって。場所や年齢とかマッチングが色々あるといいなと思いました。 ・知り合いで 30 回くらい婚活パーティに参加して出会った人と結婚した人がいる。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・自信が持てる収入があって、良い車持ってたったら良いんじゃないか。女性の条件が多いから未婚率が高いのでは？ ・収入が少なければ共働きで問題ない。 ・さっぽろ JOIN CAFE について：年齢が若すぎる。40 才以上限定だったら行ってみたい。札幌市がやっているという安心感がありますし。カメラ講座はスマホなら参加したい。コミュニケーションアップセミナーとか良いと思う。

	<ul style="list-style-type: none"> ・成人式のようなものはその場に集まるだけで話すきっかけがないので、出会いの場にはならない。
女性 18-35 才	<ul style="list-style-type: none"> ・あまりお付き合いをした経験がないところが大きい。合コンとか街コンとか開いてくれる方とか参加できる場所があればいい。出会いのために何もしないというより何もできないという。 ・相手として譲れないのはマナーとお金のことがきちんとしていること。 ・さっぽろ JOIN CAFE については、あるのはありがたいが、今の人に惹かれる内容なのかなと思う。食事をするとか食に関することだとみんなが触れやすい話題なのでは。チームでできフットサルとか男女混合のスポーツ。時間帯も 18 時半だと参加するにはぎりぎり。 ・民間の婚活イベントは男性の方が会費が高いのはちょっと疑問。 ・30 才式ってお金がかからないし面白そうだから話のネタに行ってみたい。 ・職場のグループワーク。自分の良いところを指摘してもらって気づけばもうちょっと自信を持てる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・友達づてにネットワークを広げる。SNS とか。イベントに行ったときに会う人とか共通の趣味を通じて Twitter で出会うとか。 ・相手として譲れないのは食べ方とか。自分は働いてお互い自立していきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・周りでインターネットがきっかけでお付き合いに発展できたりとか、結婚までされた方もいるので絶対そういうことがないってわけでは無いんだなと思うけどやっぱり怖い場所みたいなイメージがある。SNS ならつながりがあるので身元がはっきりしているのもまだいい。 ・相手として譲れないのはマナーと協調性。結婚しても働いていたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットは見るだけで、お付き合いに発展するイメージはない。 ・相手として譲れないのは話を聞いてほしいというか協調性。自分は仕事しないで子どもと一緒にいたいと思うが相手の収入次第では自分も働く。
女性 36-49 才	<ul style="list-style-type: none"> ・結婚手当的なことによるメリット。出産後の補助や家の補助。 ・札幌市のイベント、全部おひとりさま限定であれば出会い要素がある。夜景を見るイベントなら行きたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・婚活婚活していないイベント。たまたまとかうっかりとかガツガツしていない出会いの場所。 ・お知らせを受け取る場としては自分が通るルートだったら。検索するかっていうとどうかな。
	<ul style="list-style-type: none"> ・男の人が草食的な人が増えているのでそういう人が気楽にしゃべれるような婚活婚活していないイベント。自分は腰が重いのでさらに深くニッチでないと行かない。
	<ul style="list-style-type: none"> ・人数集めるなら土日。そういうイベントに興味があっても知らないという意味がない。わかっても行ける状況でなくても意味がない。出会いありきのイベントは行かない。 ・交通広告は見ない。スマホを見る。
	<ul style="list-style-type: none"> ・本州でお寺の婚活があつて、それがめちゃくちゃ予約が入っていて 1 年待ちみたいになっていて。お寺が縁を繋ぐというか、言葉をマイルドに婚活じゃないよーってすると、心動かされるかな？と。

B 結婚を希望しない独身者グループの結果

(1) 結婚をしなくていいという考えに至った経緯や背景

<男性グループ>

◎結婚をしたいと思っていたが結婚以前にモテない、出会いがない、ということで恋愛・交際ができなくてあきらめるというパターンや、交際経験があっても失敗が続いて、有料の夜のお店の方がコスパが良いと思って割り切って生きる例もあるようだ。

◎収入が低いことで結婚できない、子どもを持たないとあきらめてしまう例も。

◎結婚となるとお金がかかる、相手の家族との付き合いが面倒など、メリットを感じるできないことも要因としてあげられた。独身の方が気楽とか、独身でいれば人に迷惑をかけにくいと思う面もあるようだ。

◎中には生きていくことがつらく、子どもにこんな思いを味あわせたくないという人もいた。

<女性グループ>

◎自分の親や周りが離婚していたり、結婚することで自分の行動に制限がかかることに対して苦痛を感じることを予想したり、お互いの親の介護の問題があったりするので結婚に対して良いイメージがないようだった。

◎男性に頼らずとも経済的にも精神的にも自立できているので結婚の必要性がないとか、自分の生活で精いっぱい、子どもの面倒など見てられないという理由もあげられた。

◎周りに未婚者が多く、近年はセクハラ、パワハラなどプレッシャー発言に対して厳しい風潮もあるので、結婚に関してプレッシャーを与えられることがなく、自由に生きて良いのだと焦ることもない。

◎中学生の時に男性から受けたいじめにより、恋愛にすら進まないケースもあった。

男性 18-49 才	<ul style="list-style-type: none"> ・工業大学で女子がいない、女子のいるサークルに行ってももうその女子には相手がいる。就職したのも職場に女性がいない会社。モテないことに慣れてしまった。両親の仲もあまりよくなって結婚にしんどいイメージがついた。結婚したら楽しいんじゃないかという期待はあるが壊れた瞬間恐ろしいことになる。そもそも結婚する以前にモテたいのにモテず、年を取るにつれて一人で生きていかなきゃいけないと感じざるを得ない。合コンも誘われたことがなくて経験がない。 ・気を使わなくちゃならなくなるから一人の方が気楽だし。
	<ul style="list-style-type: none"> ・昔から結婚願望がなく、メリットがいまいちわからない。キャバクラが好きだがそれを許してくれる人はいないだろうし、結婚するとお金がかかるし相手の家族との付き合いも面倒くさい。3人交際したがみんな浮気されてキャバクラに走った。コストパフォーマンスもいいし。 ・街コンはイケメンがいっぱいいるから話しかけられなかった。
	<ul style="list-style-type: none"> ・正直生活していて生きることが辛い。子どもにもこんな思いを味合わせたくない。それなら結婚しないで一生1人がいい。高校の頃からの精神的なもの。精神科に通って

	<p>たこともある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若いころは一生に一度は結婚してみたいと思ってたが、まともに働いていたころでも月収 20 万とか 30 万だったのでこれで結婚して子ども 2 人は無理だなと思った。収入が増えることなく今に至ったのでしょうがない。年収 500 万円あったら考えるが。 ・1 人であることによって人に迷惑をかけにくい。
女性 18-49 才	<ul style="list-style-type: none"> ・ご飯を食べたり、出かけたりする友達感覚の相手なら、いたら楽しいかなと思うが、結婚だと付随する大変なことが関わってくるので、結婚には向いていないと思う。親が離婚していて、家族というものに幸せなイメージがない。 ・子どもが欲しいという気持ちもない。自分の今の生活がいっぱい、いっぱい。他の人の面倒まで見られない、大変だろうと思う。 ・結婚すると結婚相手に親の介護を手伝ってもらったりすることなどを考えると大変だなと思って結婚しようと思えない。 ・今は未婚の人が当たり前の時代になっているから、安心感と周りからのプレッシャーがない。自分のやりたいようにできる。自由が与えられている。そういう意味では今の時代は生きやすい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・現状に満足している。男性を頼るまでもなく、経済的にも精神的にも自立できている。 ・自分一人でやっていけるし、婚姻関係を結んだことで、縛られるのが自分的には嫌だと思う。基本的にわがままなので、結婚したことで行動制限があったり、その人と生活を合わせて行くと考えると苦痛に感じる。 ・親は離婚しているし、縁も切っている。周りの幸せな結婚生活を見ても、自分がそこに当てはまるイメージが浮かばない。 ・離婚するとなったら、相手方の家族に対して申し訳ないと思うから、離婚となったら面倒くさいので結婚はしたくないと思ってしまう。 ・結婚してうまくいっている人を見ても羨ましいとは思わないし、自分がその立場になりたいとは思わない。
	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生の時に男子からいじめを受けていて、それで異性に完全に興味がなくなってしまった。 ・そもそも恋愛にまずいかないので、結婚にもいかない。 ・周りの離婚率が高く、自分の両親も離婚しているので、結婚に対してプラスに見れない。マイナスの要素の方が大きい。 ・「結婚しろ」などと言う人は、セクハラやパワハラと言われたり、圧力をかける側が糾弾される時代なので、自由に生きて良いのだと焦りもない。

(2) 恋愛を阻害する要因についての深堀

以下のような資料を配布し、さらにお考えをうかがった。

5つの恋愛阻害要因(牛窪恵著「恋愛しない若者たち」より)

「超情報化社会」がもたらした功罪 ①恋愛の趣味化、恋愛を遠ざける「ほかの楽しいこと」 ②膨大な情報開示によるときめきとチラリズムの消失、セックスへの関心低下および嫌悪 ③二次元(ゲーム)での裏切らないバーチャル恋愛に比べ、リアルな恋愛は精神的に「重い」 ④加速する性のセルフ化
「男女平等社会」と「男女不平等恋愛」のギャップとジレンマ ～昭和の恋愛幻想に縛られる若者たち ①男性の草食化、女性の早熟化 ②社会的閉塞感に影響される男性、選択肢が広く逃げ道もある女性 ③男女平等なのに恋愛では男女不平等
超親ラブ族の出現と恋愛意欲の封じ込め ～なぜ子離れできない親が増えたのか？ ①母親への過剰な配慮が子どもの恋愛意識を封じ込める ②もの分かりのよすぎる親世代(結婚プレッシャーをかけない)
恋愛リスクの露呈と、若者たちのりすく回避 ～「自己責任」に脅える恋愛事情 ①性病、ストーカー、セクハラ、DV、リベンジポルノ、えん罪などのリスクへの不安 ②妊娠、でき婚 ③離婚、貧困
バブル崩壊と長引く不況が招いた、恋愛格差社会 ～非正規では恋愛もできない？ ①低年収・非正規雇用男子と恋愛したくない女子 ②お金はあれど恋愛の時間がない正規、時間はあれど自信がない非正規 ③稼ぐ妻を望みながら家庭的な可愛い女性に恋する男性の矛盾

<男性グループ>

◎出会いがない、出会ったとしても女性が選ぶ方で男性は選ばれる側なので受け身になっているようだ。恋愛したい気持ちはありながら、異性との付き合いはいちいち傷ついたり面倒だったり、スマホや二次元で全部満たされ楽しいので、恋愛する時間が無駄、女性と付き合う必要性がないのかもという理由もあげられた。

<女性グループ>

◎男性の草食化により、積極的な男性が減って女性から告白する方が多くなっているのではという意見があった。女性も女性同士で遊ぶ時間は楽しいが、男性と出かけるとなると面倒、バーチャルの方が気楽、趣味に時間を割きたいので無理に恋愛しなくてもいいという。

◎就職氷河期にあたっている年代の、現30代後半～40代の男性は新卒卒でなかなか就職できず、派遣の規制自由化などにより非正規雇用の割合も多かったが正社員への転職は難しく、今も金銭の余裕がない人が多いのも要因だろうという説明をする人もいた。

男性 18-49才	<ul style="list-style-type: none"> ・年金が自分の代ではあてにならないから貯金している。他人の人生背負えるほど自分に余裕がない。 ・結局自分のいるコミュニティが狭くて出会う接点がない。 ・女性って付き合う対象をぱっと見て決める。友達程度にはめられた男子がいざ告白すると恐怖みたい。女性は理想の高さが生きがいなのでは。どの時代も女性は選ぶ側で男
--------------	---

	<p>性は選ばれる側。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・恋愛しない若者たちって言うてるが悪いことだと思わない。 ・恋愛する人に出会いたい気持ちはある。 ・収入が上がってくことが期待できなくて大企業も倒産する。自分は大学院を出ても就職できず3年間プータロー。子どもが成人したとしてもまともな社会人になれるのか？そう考えると子どもを産みにくい。 <p>・スマホで何でもできる。インターネットはでかい。家でエロ動画も全然見れるし、異性と出会う必要性を感じないじゃないんですかね？全部満たされるから。</p> <p>・異性との付き合いはいちいち傷つく。今はLINEの返信が遅いとか既読スルーとかでもめたりする。それが面倒くさいっていうのもあるのでは。</p> <p>・道内地方都市の高校を卒業して札幌の専門学校を出て就職活動をしたが、1999年は就職氷河期で企業説明会行ってもどんな企業でも行列ができていたし、何十社も受けたがどこも受からなかった。就職できないのに親からは就職しろと言われた。それでメンタルも強いんじゃないか？</p> <p>・非正規から正規社員への転職は難しい。あまり働きたくないから1日4時間週5でコールセンターで働いている。働きながら転職するっていうのも何ができるのかを考えにくい。正社員は奴隷みたい。いくら働いてもそれしかもらえないのが嫌。当時はブラック企業ばかりだった。札幌も拓銀が破綻してひどかった。でも逆にちょっとのことで動じなくなった。札幌の30代の未婚率はそういうのも影響していると思う。</p> <p>・女性を選べる男性は少ない。「男性を選べない女性」は男性にくらべれば圧倒的に少ないと思う。</p> <p>・パパ活して選り好みして金だけぶんどってる女子もいる例もあるから、余計に拍車がかかっているのでは。</p> <p>・2次元というのは確かにある。</p> <p>・就職は通年採用の方がいいと思う。中途採用は不利なイメージ。</p> <p>・出会いの場もなかったし、今までモテたこともないから自分に魅力もないんだろうし。積極的にになにかしたわけでもない。</p> <p>・結婚を阻害する要因として全部納得できる。</p> <p>・人生の中でゲームでもなんでも楽しいことをやっていれば恋愛しないで過ごせる。楽しいことがいっぱいあって恋愛する時間が無駄じゃないか、50才になっても楽しいことができる生活が続けられたらそれはそれで満足なんじゃないかって思う。</p> <p>・大学卒業後景気が悪くてすぐに就職できなかった。貯金が300万円あると生活保護も受けられない。</p>
<p>女性 18-49 才</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・周りに結婚していない人も結構いるので女子会が多くて、恋愛しなくても同じ立場とか感覚の友達とご飯を食べたり、映画を見たり遊んだりするので、楽しく過ごせている。女性同士ならそのままで行けても、男性に対しては、おしゃれしなきゃとかが疲れる。 ・昔の男性だと積極的にアプローチしたり告白したりする人がいたが、最近は草食化していて、むしろ女の人が告白したりすることの方が多いのでは？ ・人間不信になっている。どこまで人って信用できるのか、本当に信頼できる人と恋愛

	<p>したり、結婚するのはすごく良いことだと思うが、その人がいつ裏切るか分からない。父親の裏切りを経験しているので、人って分からないと思ってずっと成長してきた。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・バーチャル恋愛の方が気楽。 ・時代とともに仕事も女性のやれることが多くなってきているし、遊べるものも多くなってきている。だから、無理に恋愛に行くことも無くなっている人が増えている。 ・絶対に恋愛をしたくないと言われたら、そういうことでもない。どちらかと言えば結婚はしたくない。
	<ul style="list-style-type: none"> ・周りの彼氏のいる友達の話聞いても、面倒くさそうに感じるの、バーチャル恋愛の気持ちは分かる。 ・いじめや親の離婚が原因で、恋愛や結婚に対してプラスに見れない。 ・9時に会社が始まり、17時位に終わって、その日は恋愛どころじゃないし、土日も平日で疲れたなと思って休んでいたら恋愛どころこう言っている場合ではない。自分の趣味には時間は割けるが、恋愛には割けない。

(3) 親からのプレッシャー、友人への憧れ、肩身の狭い思い、将来の不安などについて

<男性グループ>

◎プレッシャーはなく、独身で肩身が狭いということもないようだ。独身には楽な時代。自分でどうにかなると思っているので不安も特にない。

<女性グループ>

◎プレッシャーはそんなにないようだ。経済面は不安に思う人と不安がない人がいたが、孤独死が心配なようだ。

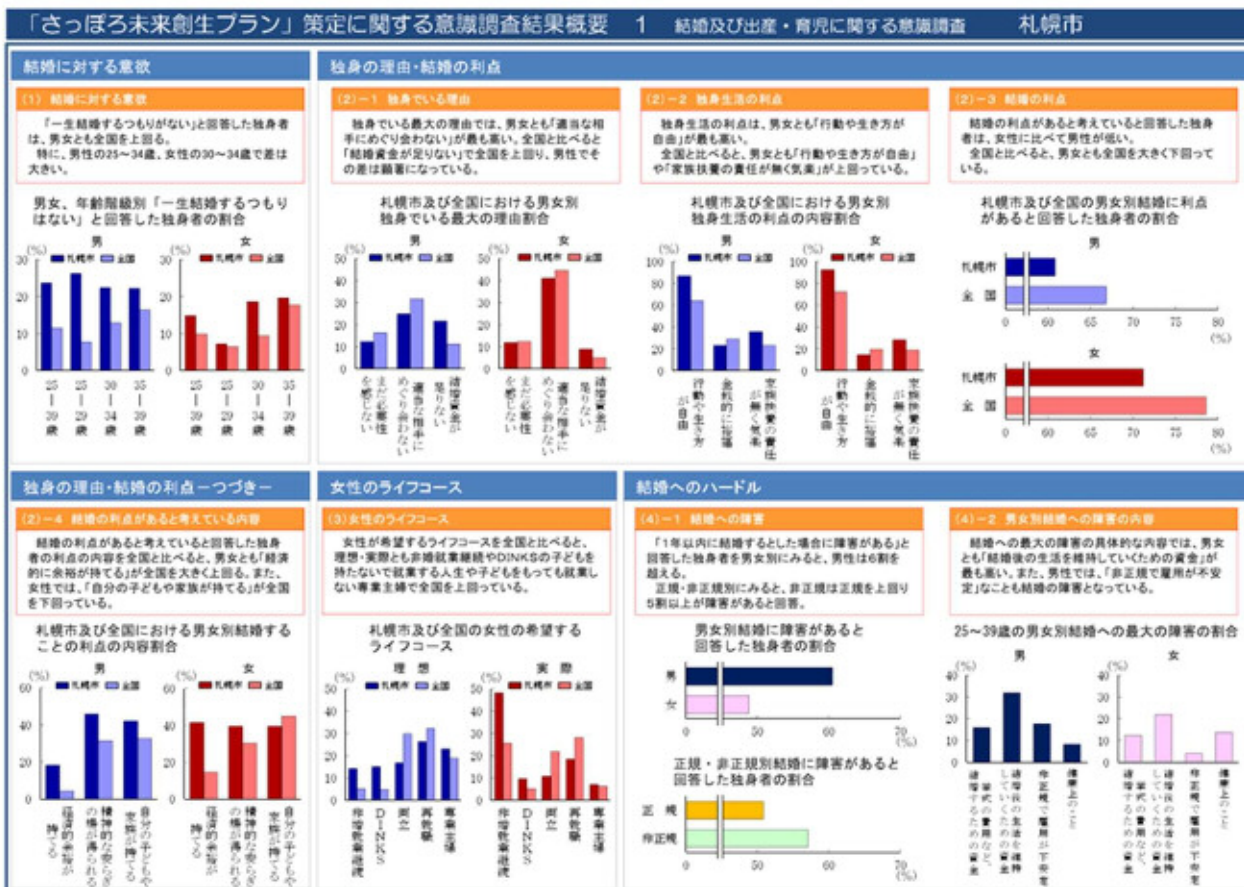
男性 18-49 才	<ul style="list-style-type: none"> ・昔はよくいわれたが今はまったく言われぬ職場でも触れられない。独身には楽な時代になった。自分でどうにかなるって気づいたので不安も特にない。
	<ul style="list-style-type: none"> ・親からは何にも言われていない。何がいけないの？って感じで生きている。
	<ul style="list-style-type: none"> ・跡継ぎとか親から言われぬ。肩身が狭いということはない。
	<ul style="list-style-type: none"> ・独身で肩身の狭い思いをしたことがない。収入がないことの方でもっと肩身が狭い生活をしている。
女性 18-49 才	<ul style="list-style-type: none"> ・20~30代の頃は「結婚してくれたら良いな」という雰囲気はあったが、自分が結婚に関心がないので、親もそこまでうるさく言うわけでもなく、好きにきなさいという感じ。 ・体力面とか今後1人でやっていけるかとか経済面とか不安だが、そうなったらそうなった時に考える。
	<ul style="list-style-type: none"> ・色々あって親と縁を切っている。姉や友達からはプレッシャーはある。
	<ul style="list-style-type: none"> ・経済面とか不安はないが、孤独死が不安。1人で死んだ後に、家の中で亡くなったら処理は誰がしてくれるのだろうか不安になるくらい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・母と結婚の話をしたとき「結婚面倒だな、嫌だな」と言うと「一回くらいはした方が

「良いよ」とは言われるがプレッシャーはない。

- ・完全に社会に出て働いているわけではないので、分からない。
- ・まだ、二十歳なので不安はそんなにないが、孤独死のニュースなどを見ると、可能性は自分にもあるかもと思う。

(4) 札幌市の未婚率が高い理由、出生率が低い理由について

札幌市の意識調査「結婚に対する意欲」「結婚の理由・結婚の利点」を提示し、お考えを伺った。また、グループによっては「結婚していない理由」の調査結果も加えて話を広げた。



<男性グループ>

- ◎遊ぶところがたくさんあり田舎は何もないので帰らない。
 - ◎女性も充実しており生活に困らないので結婚に逃げる必要がない。
 - ◎大卒も多いので大学を卒業して仕事が順調にいく年齢を考えると20代の結婚は難しい。
 - ◎保育所が足りないので共働きをして収入を増やし、子どもを2人3人と育てられない。
- などということが札幌市の特徴としてあげられた。

<女性グループ>

- ◎収入が低いので家族を養う大変さから結婚に踏み切れない男性が多い。
- ◎犯罪が少ないので独身女性も生活しやすい。
- ◎親戚づきあいが少なく、結婚相手の紹介もない。(東北は親戚からの紹介が頻繁)
- ◎車社会でお金がかかる。家賃以外は光熱費など全部高く、収入は少ないのに出ていくお金は多い。

<p>男性 18-49 才</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の職場も札幌で結婚してなくて、地方勤務の時に結婚して転勤して札幌に来てい る。地方だと遊ぶ場所がないから？ ・田舎は何もないので帰りたくなかった。札幌の方が遊ぶところがいっぱいある。 ・行動や生き方の自由という項目が札幌市は高いのはよくわかる。自分がやっているこ とを邪魔されたくない。 ・札幌では保育所が足りないので共働きして収入増やしてと言っても子供の育児ができ ない。共働きの人が子ども2人3人育てるのは無理。 ・女性も、今楽しいし、いろんなこと充実しているし、札幌にいて生活困ることない し、悪い言い方すれば結婚に逃げる必要もないのでは。 ・ススキノに行くような人はそれはそれで楽しいのでは。 ・大学卒業して仕事が順調にいくまでに5年かかるとしたら20代で結婚は難しいと考 えるんじゃないですかね。
<p>女性 18-49 才</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌では年収が低く、自分の生活がいっぱい、いっぱいなのに、家族を養うことが大 変だから結婚に踏み切れないと周りの男の人たちが言っている。 ・仕事がないとか、親の介護が必要とかが付随してくると、結局結婚しない方が良いの かなという判断の男女が多いのかなと思う。 ・女性一人で生活していても、札幌は犯罪が少ない方なので安心。 ・東北では家族単位で生活している人が多かった。卒業してすぐ結婚と言う方が多かつ た。親戚などが多いので、結婚相手の紹介やお見合いなども場が頻繁にある。札幌は親 戚つきあいなどもそんなにないので、「それぞれ好きなようにどうぞ」という感じがす る。 ・経済的理由が大きい。北海道は収入の割に出て行くお金が多い。所得が低いのに車社 会で車が必要なのに、保険料が高かったり、ガソリン代も他の地域に比べて北海道は高 い。東京に住んでいたことがあるが、家賃以外は全部東京より高い。ガス代は東京の2 倍くらいかかる。 <p>—</p>

(5) 恋愛や結婚を促進すること、札幌市の支援事業や民間の婚活事業について

札幌市や民間の婚活イベント資料も配布し、お考えを伺った。

<男性グループ>

◎イベントに行ったとしても自分は相手にされないと思うので婚活イベントは敬遠してしまう人や、同じ趣味の人は好きではない1人がいいと尻込みしてしまう人がいる一方、お金がかからないなら行ってみたい、内容的には悪くないと興味を持つ人もいた。

<女性グループ>

◎「結婚を希望する若者たちの新しい出会いを支援していきます」となると、参加者が皆そういう考えで参加するのかなと思うと引いてしまう、結婚と言われるとガメツイ感じがするらしい。「友達の輪を

広げませんか？」くらいの感じの方がハードルが下がるようだ。みんなで楽しく出かけましょうというような雰囲気。若者だけでなく、全年代でもいいのではないかという意見も出た。

<p>男性 18-49 才</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・婚活とかそういうの好きじゃない。行ったとしても自分はおメガネにかなわないんじゃないかっていう… ・さっぽろ JOIN CAFE はお金かからないなら行ってみたい。どんな人が来るのかが楽しみで行ってみたい。 ・自分と同じ趣味の人が好きではない。1人がいい。 ・さっぽろ JOIN CAFE、内容的には悪くないと思う。
<p>女性 18-49 才</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・さっぽろ JOIN CAFE は知らなかった。 ・「結婚を希望する若者たちの新しい出会いを支援していきます」ってなると、来る人が皆そう思ってくるんだろうと思って引いてしまう。皆で楽しく出かけましょうっていう雰囲気だと良いと思う。 ・テレビでやっているバスツアーの観光巡りや窯でピザ作りとかも良いと思う。 ・さっぽろ JOIN CAFE は内容が女性にはどうなんだろう。 ・「結婚を希望する若者たちの新しい出会いを支援していきます」については、結婚と言われると目的が皆そういうのになっちゃうから。 ・さっぽろ JOIN CAFE は、初めて知った。 ・「結婚を希望する若者たちの新しい出会いを支援していきます」については、別に若者だけじゃなくて、全世代でも良いんじゃないかと思う。 ・結婚と言われると、ガメツイ感じがする。友達の輪を広げませんか？くらいの感じの方が、ハードルが下がる。

C 有配偶者で子どもを希望する既婚者グループの結果

(1) 希望の子ども数に至っていない理由

<男性グループ>

- ◎お金が足りないから：お金が無い、お金が足りない、足りなさそうだから。1人生まれたら経済的に手一杯になってしまった、収入が下がった、自分1人だけの収入になると教育費が足りなくなるなど。
- ◎子育てのマンパワーが足りないから：産後や複数の子育てのマンパワーが足りない。実家の支援、地域コミュニティの協力が得られない。短期保育、一時保育が利用できないからこれ以上子どもを増やせない。
- ◎自分が大切だから：子どもに時間を取られ自分の時間がなくなるという考えに変わってきているのでは。

<女性グループ>

- ◎子育て、家のローンなどにかかる実際の金額がわからない：いくらかかるかわからないから1人が無難、という人もいた。
- ◎1人育てるシミュレーションの金額が高かったから：保険会社などのシミュレーション額に驚き、大学の費用を考えて理想数を減らしている。
- ◎働きたくないから：専業主婦でいたい、働きたくないので、夫の収入だけで考えると子ども1人が無難。
- ◎かわいい様子を見たいから：3才まで成長を見届けたいので保育園に入れず、働かないので世帯収入が増えず予定数が減る。働いて預けて子どもの成長を見届けられないくらいなら、子どもを増やさない方がいいという選択が見られた。男性グループでは3才までは妻に子どもを見てほしいという「3歳児神話」的な考えもあったが、それとはまた少し違った観点。
- ◎習い事をたくさんさせたいから：塾、英語、スポーツなど周りの家庭もたくさん習わせている。
- ◎保育料が高くパート賃金が安いから：保育料がパート就労の賃金と変わらないので再就職を阻んだり、収入も増えないので子どもを増やせないことにつながっている。
- ◎職場の理解がないから：産休育休が取れない、
- ◎人手不足で辞められない・休めないから
- ◎仕事との両立ができなくなるから：保育園へ入れて働くことで経済面では理想数を達成できるが、仕事との両立の心配が出てきて予定数が減るようだ。
- ◎母体やリスクが心配だから：出産自体が大変、帝王切開や流産、高齢出産によるリスクなどによる妊娠・出産に対する不安。
- ◎予定数の人数まで産まなくても現状に満足しているので、なにかを犠牲にしてまでもう1人産まなくても良いという様子も見られた。
- ◎出産年齢が遅いから：札幌は家族のつながりが強くないのでプレッシャーもなく高齢出産も多いのでは。

<p>男性 20-35 才</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会社が全国転勤の会社なので転勤が前提。基本的にはお互いの実家がない。しかも転勤してコミュニティーが無いので夫婦だけの子育てはきつい。また結構出張する機会が多いので、家内に申し訳ないなって気持ちが強い。 ・短期保育とか、一時保育とかも探してはいるが、朝9時から電話かけても今日はもう締め切りましたみたいな感じだったり、保育園も家内が働いていないと入れなかったりとか。
	<ul style="list-style-type: none"> ・今はまだ子どもがいなくて共働きですが、子どもができて僕一人だけの収入になると、産んだ時はなんとかなるとして、その後高校大学ってなってきた時の状況によっては金銭面でやっぱり一人だけの方が良かったとか、思ってしまう気がします。
	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生になると、ある程度自分で行動したり、色々生活範囲広がると思うが、一番手のかかる時期はやっぱり幼児期で、幼稚園、大学と月額いくらかかったりバス代がかかったり、諸々の費用が掛かってくるので、金銭的にきついです。同時に入っていたら割引があったりだとか、色々あったりすると思うんですけど。 ・うちの場合2才離れなので、年長と年少なので結構費用負担としても嵩んできてて、かつ下の子がまだ小さくて幼稚園には入れない。そういった意味では妻の体力的にもキツイですね。
	<ul style="list-style-type: none"> ・うちの従業員は結婚してても子どもがいないので聞いたら、お金無いから生活できるか心配だっていう。結局皆お金かなと思う。自分もお金がいっぱいあって子ども産んだわけじゃないし、かかるにはかかるけど、馬鹿みたいにかかる話ではないよって話をしたんですけど。 ・お金がないと奥さんも働かせないといけないし、でも出産直後に働けないからっていう悩みもあるんじゃないかと思う。 ・結婚もしたいし子どもも欲しいんだけどお金がないわっていう。
<p>男性 36-49 才</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が男3人兄弟だったので子どもも良い、悪いではなくてそういうものだと勝手に思っていたが、1人生まれたら経済的に3人で暮らすので手いっぱいで2人目には手が回らず。 ・自分が複雑な家族環境なことから、子どもを持つ気がそもそも無かったが、作ろうと思って作ったわけではなく、たまたま子どもができた。子どもができた以上は覚悟を決めて一緒になろうと。お互いひとりっ子の状態で育ってきたので、兄弟は欲しいよねと、生まれてしばらく経ってから話すようになったが、そのうちに収入が一旦落ちて、それが回復するまでは難しくなった。そのうちに年齢的にも、子どもに対するリスクが高すぎるので、諦めようとなった。 ・周りを見ていると出産の大変さを忘れてまた欲しいと女性の方が思えるように生きてきたのか、自分が大切でそういうのは嫌だ、子どもに時間が取られると自分の時間がないっていう風になってきているのか、そういう意識の変わり方が昔と今であるのでは。 ・妻が今39才で、つい最近妊娠が発覚。自分に当たり前のように兄がいたのでひとりっちは寂しいなって漠然と思うので、2人は欲しいなと思う。 ・ただうちの妻が言うのは、子どもができると働けなくなる。自分が自由に仕事が出来なくなるというのと遊びも自分の自由な時間がなくなってしまう。好き勝手に飲みに行くこともできなくなる。周りからもそういう話を聞くのが子ども数が少ない理由かも。

	<ul style="list-style-type: none"> ・家内が元々妊娠しづらい体質で、たまたま1人目ができて、そのまま普通に2人目もできて、結果的に2人になった。1人で育つよりは2人、3人の方がその子なりの社会性とかを考えると、その子の成長とか小さい子なりのコミュニティの学び方が出来るのではないかと考えていて、できれば1人よりは2人と考えていた。 ・増えない要因としては、根本的な部分は経済的な要因が一番大きいと思う。1人目の子にこんなにお金がかかるのかとか直面し、二の足を踏む方が圧倒的に多いのでは。
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分がひとりっ子だったので兄弟は絶対欲しいと思ってて、男の子と女の子で別れたのでちょうどいいです。自分と妻に何かあったら1人残しちゃうことにもなるので助け合う兄弟っていうのは1人でも2人でも絶対いた方が良かった。 ・妻の友人で、妊娠期も出産も大変過ぎて、もうこんな思い2度としたくないから1人でいってという方が何人かいる。
女性 20-35 才	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事に復帰したら1人でもこんなに大変なのに2人3人となると仕事の両立ができるのかな。結婚が30才だったので年のこともある。子どもと密着しすぎるのも怖かったが、自分自身も仕事が好きで働きたかった。帝王切開で母体が心配。 ・2人か3人欲しいけど、家を建てる話の時に自分が専業主婦としてシミュレーションしたら、1人なら私立大学まで行かせられるが、それ以上は奨学金を借りなければならぬ結果。1人が無難なので予定は1人にした。 ・3人ほしいけど習い事をたくさんさせたいことを考えると1人になっちゃう。稼げるときに稼いでおいて、かわいい3才までは見届けたいので保育園に預けたくない。 ・3人欲しいけど、家のローン、塾、スポーツなど未知数の経済的理由が全然わからないので1人が大事に育てられるのかなと。幼稚園の預かり保育や児童館にも抵抗がある。自分の年収を0としたら1人が限界。年齢的に高齢出産ということも。 ・理想は2人だが、いくらかかるかわからないから1人。保育園は考えてなかったのは、最初の歩くところとかを見逃したくなかったから。幼稚園に入れてからパートを始めた。 ・理想は3人だがパート先（憧れの職場）が人手不足で今辞められないし、親が同居して子どもを見てくれているので、成長を見逃しても安心。流産、帝王切開で次の妊娠出産に不安もあるからもう1人でいいかなと。 ・3人欲しいと思っていたが2人。出産が大変なのと、歯科勤務だが産休育休がとれないこと。職場の理解がない。保育園に預けられたが病児保育は事前に電話して病院連れて行って診断書とハンコとか何時までにとかで結構めんどくさくて今まで1回も利用したことがない。定員もある。 ・仕事と経済的なこと、周りのサポートがないので産めない。 ・周りは一人っ子が多く塾、ダンス、英語とプールみたいな習い事をたくさん。1人にかかる教育費が凄まじいなど。
女性 36-49 才	<ul style="list-style-type: none"> ・理想2人だが1人。産後再就職しようとしたが、パートで4~5万円なら保育園代と同じ額で何のために働いているんだとなるので正社員で探したら、17~18年前だったので子どもを持つ親が正社員？というようなことを言われた。兄弟多く全員大学も難しいと親に言われたので、自分の子は行きたい学校に行かせようと1人に。家族3人で楽しんで過ごそうと切り替えている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・理想は2人だが専業主婦で働いていないので経済的な負担が増えることを考えるとストップがかかっている状態。
	<ul style="list-style-type: none"> ・最低3人と思っていたが、2人の子どもの体が弱かった。看護師でフルタイムだがお迎えの電話がたくさん来て仕事を休むのがすごく大変だった。親や主人にも頼んだが主人と自分の職場から休み過ぎだということになり保育園からも職場からも責められて辛かった。それと教育費。塾や習い事、大学に3人は厳しい。育休が3年とれれば保育園に入れず風邪もそんなにもらってこないで済んだかも。 ・周りは一人っ子が多く、大変すぎて2人目なんて考えられなかったと。
	<ul style="list-style-type: none"> ・理想は2人だが1人。1人目が手がかからない子だが次もそうとは限らず、自分の性格上イライラがひどくなるのが怖いというのと、経済的にマイナス状態なので。 ・私のまわりはほとんど一人っ子。
	<ul style="list-style-type: none"> ・3人理想だが2人。札幌にいと治安の問題があり、親がどこか頑張って連れて行かないと遊ぶ場所がないイメージ。経済的なこと、保育園も絶対入れないだろう。1人で育児をまわすには2人が限界と思う。 ・私のまわりは結構みんな一人っ子。もともと高齢で産んでいるのもう無理って。二人目不妊で病院通ったけどできなかったとか離婚しちゃったのでとかで1人か2人。産みなさいプレッシャーが家族のつながりが無い分、あまり言われなかったり、36才で初産の人も最近多くて、それも普通という感じで出産年齢が遅いから。

(2) 希望の子ども数に至っていない理由の深堀

意識調査の「これ以上子どもが欲しくない理由」の各項目についての深堀をした。

表 7-2 子どもが欲しくない理由 (MA)
【(これ以上) 子どもが欲しくない方限定、性・年代・未婚・子有無別】

	N	今の家族構成に満足している	育てたいひとりに十分手をかけて	ひとりでひとりに十分手をかけて	仕事を続けるのが難しくなりそう・仕事を続けるのが難しくなりそう	家事にさしやわりが出そう・仕事が続かない	配偶者の家事・子育てへの協力が期待できない	親の協力が期待できない	親の協力が期待できない	保育サービスを利用できない	経済的に難しい	育児にかかる費用が心配	将来の教育費が心配	住居が狭い	い	自分や夫婦だけの時間がとれない	子どもと一緒に過ごす時間を十分にとれない	子育てをする体力がない	その他	特にな	無回答
全体	(349)	47.3	17.5	18.1	13.8	10.3	4.0	54.7	48.4	49.9	16.6	15.2	10.3	28.4	14.3	7.2	1.7				
男性 全体	(103)	39.8	13.6	6.8	4.9	7.8	2.9	52.4	36.9	38.8	15.5	12.6	10.7	15.5	8.7	10.7	2.9				
女性 全体	(246)	50.4	19.1	22.8	17.5	11.4	4.5	55.7	53.3	54.5	17.1	16.3	10.2	33.7	16.7	5.7	1.2				
未婚 全体	(84)	7.1	0.0	16.7	3.6	3.6	2.4	38.1	25.0	21.4	1.2	13.1	8.3	16.7	20.2	27.4	2.4				
” 男性 全体	(37)	8.1	0.0	8.1	2.7	0.0	2.7	43.2	18.9	16.2	2.7	13.5	10.8	8.1	8.1	29.7	2.7				
” ” 20代	(17)	11.8	0.0	11.8	0.0	0.0	0.0	29.4	23.5	17.6	0.0	11.8	23.5	11.8	5.9	41.2	0.0				
” ” 30代	(20)	5.0	0.0	5.0	5.0	0.0	5.0	55.0	15.0	15.0	5.0	15.0	0.0	5.0	10.0	20.0	5.0				
” 女性 全体	(47)	6.4	0.0	23.4	4.3	6.4	2.1	34.0	29.8	25.5	0.0	12.8	6.4	23.4	29.8	25.5	2.1				
” ” 20代	(17)	11.8	0.0	35.3	5.9	0.0	5.9	41.2	23.5	17.6	0.0	17.6	5.9	5.9	29.4	23.5	0.0				
” ” 30代	(30)	3.3	0.0	16.7	3.3	10.0	0.0	30.0	33.3	30.0	0.0	10.0	6.7	33.3	30.0	26.7	3.3				
既婚 全体	(264)	60.2	23.1	18.6	17.0	12.5	4.5	60.2	56.1	59.1	21.6	15.9	11.0	32.2	12.5	0.4	1.5				
” 男性 全体	(66)	57.6	21.2	6.1	6.1	12.1	3.0	57.6	47.0	51.5	22.7	12.1	10.6	19.7	9.1	0.0	3.0				
” ” 20代	(4)	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	100.0	100.0	100.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0				
” ” 30代	(62)	58.1	19.4	6.5	6.5	9.7	3.2	54.8	43.5	48.4	24.2	11.3	11.3	21.0	9.7	0.0	3.2				
” 女性 全体	(198)	61.1	23.7	22.7	20.7	12.6	5.1	61.1	59.1	61.6	21.2	17.2	11.1	36.4	13.6	0.5	1.0				
” ” 20代	(17)	64.7	23.5	17.6	17.6	17.6	11.8	70.6	88.2	76.5	29.4	23.5	5.9	11.8	11.8	0.0	5.9				
” ” 30代	(181)	60.8	23.8	23.2	21.0	12.2	4.4	60.2	56.4	60.2	20.4	16.6	11.6	38.7	13.8	0.6	0.6				
” 子有り	(240)	62.5	25.4	19.6	17.5	12.9	5.0	63.7	59.6	62.5	23.3	14.2	11.7	32.5	10.0	0.0	1.2				
” 子無し	(24)	37.5	0.0	8.3	12.5	8.3	0.0	25.0	20.8	25.0	4.2	33.3	4.2	29.2	37.5	4.2	4.2				

1位 2位 3位

① 経済的に難しい・育児にかかる費用が心配・将来の教育費が心配

<男性グループ>

◎教育費用を心配している割に具体的な額を調べたりはしておらず、聞きかじっている程度。補助金などもらえるものについての知識もないようだ。収支がわかっていないので見通しが立たず不安なのに、計算してみたり情報を集めない。

◎一方、親がそんなに背負い過ぎず、推薦や特待生制度、奨学金やアルバイトなど子どもにもできることをやれればいいのではという人も。自分がそのような経験をしているから言えるのかもしれない。貧乏でも幸せなので経済的なことは気にしないという人もいた。

<女性グループ>

◎今後かかる費用を把握していない場合は、漠然と経済的に不安と思っている。今でも生活するのにいっぱいなので先のことまで考える余裕がない、コワイので調べない現実逃避と言う人もい

た。

◎シミュレーションしている人は、保険会社の計算提示による高額な結果に驚き子どもを増やすことをあきらめている。いずれも奨学金制度や手当など補助となることを踏まえた資金計画ができていない傾向が見られた。

<p>男性 20-35 才</p>	<ul style="list-style-type: none">・今は将来の教育費、小さい時から心配。幼児教育無償になるとかっていう話とかも出てますけど。でも市の補助金とか、手当とかもあったりするので育児に係る費用というのはそこまでではないのかなと。・それより高校、大学に行く費用。公立なのか私立なのかスポーツ目的で行くのかってなった時に、今まで出していた金額も格段に跳ね上がるのかなっていうのがあるので。・将来の教育費の心配はあります。今できても子どもが成人する時 55 才。さらにまたできると成人する前に定年しちゃうかもしれないとかの不安もある。・今の育児にかかる費用とか正直補助金とかがどれくらいってというのが全く分からないので。調べれば分かると思うんですが、多少の心配はありますけれども、そこまで重くはみてないかなって部分はあります。・補助金の件は嫁があるよっていうのだけ聞いている感じで、あとは友達がこの間出産して、補助金があるから助かったんだよねっていう話でしか聞いてない。そこで止まっているような状態ですね。その時にそういうのがあるんだっていうのを初めて知ったんですけども、そんな感じです。・漠然といくらかいかかるみたいなのがあまり情報としてないと思う。幼児期はよく金がかかるとか、高校大学にお金がかかるとか。出産のときも補助のチケットを頂きますけど、どこからが実費なのかとか大体自分でどれくらい持っていれば出産までのお金を用意できているのかとか、あまり分からなかったりとかしていたので。せっかくもらったチケットには有効期限があるよとか、出産一時金だけで賄えるよとかいう情報があるだけでも違うと思うんですけど、そこらへんがあまり分かってなかったの見通しが立てられない。・僕自身は少子化に影響する職業に就いているので、将来的な漠然とした不安というのがある。・うちは経済的な事をあまり考えた事はないですね。子どもが大学行くんだったら僕がそうだったんですけど、何か自分で得意な物を見つけて特待だったり、推薦だったり色々あるじゃないですか。お金がかからない方法を親が教えるのも大事かなと。バイトもできるし。・全部親がってならなくてもいいと思うですよ、子どもが大きくなれば。ある程度の事は見てあげなきゃだめかもしれないけど、自分でできることは自分でやらせようと思うし。自分もやってきたし。全部親が背負うものではないんじゃないかって俺は思いますね。
<p>男性 36-49 才</p>	<ul style="list-style-type: none">・子どもの幼稚園、教育費で圧迫されている実感はないがこれから先、小中高とかかかると思うが、ちゃんとは考えていない。高校から大学行くってなった時は・・・考えないようにしている。お金はかかりそうだけど、何とかかなると思っていないと生きていけない。

	<ul style="list-style-type: none"> ・希望としては2人目欲しいと思っているが金銭的に無理だと思っている。 ・自分も経済的なものもあったが、自分は仕事を完全にやめたので他の方とは違うところもあると思う。 ・以前勤めていた会社が、それなりの会社だったが、新卒で正社員で入ってきた子が自活できない給料しか貰えていない現実がそこにあった。その子達がどこまで上がっていくかは、それぞれの会社で変わってくると思うが、その苦しいところからのスタートだと、結婚するかどうかから始まって、同じ年代の方と結婚するって考えると二人ともあまり収入がない。そこで子どもができたら辛いのでは？となるだろう。 ・自分と妻は親戚が多かったので、お祝い金で賄えた部分もあったが、今の若い人たちは親戚が少なくなってきていて、貰えるものも少なくなっている。祖父、祖母から援助を受けられたり子どもを預かってもらったりというのがあれば良いが、協力を得られない人もいると思うと、若い人には色々な複合的な問題があるのでは。 ・周りの話を聞いてきて、2人で働いても1人分の収入がなくなるという話も聞く。逆に、覚悟をしているので1人くらいなら問題ないのかなと思う。 ・自分は貧乏な方だったと思うが、それで幸せだったので。食べてさえいければ何とかなるっていうのがある。経済的なところは気にしてはいない。 ・そうですね。経済的にかかることだとか、北海道の経済情勢とか判断していくと比較的厳しい現状にあるのは当然かと。思ったより幼稚園もお金がかかるなと思ってびっくりした。 ・終身雇用とはいえ給料は上がっていかないし、現実的な部分と実際経験している部分、話聞いている部分とで分かってくるのでは。 ・まだ幼稚園なので外食するにも何するにも小学生未満だとお金がかからないから、まだ良いが、小中高で塾とか学費とかこれからかかってくるのかな？と思っている。これからかかる具体的な金額は知人から聞いた程度。で、大学とか、特に私立大学行ったら、すごくお金がかかると聞いている。
女性 20-35 才	<ul style="list-style-type: none"> ・奨学金とかいろいろな制度があるのでどうにかなるだろう。でも第一子が生まれてすぐお金がかかるんだって思った。 ・児童手当はありがたい。特に働きたいと強い希望はなく扶養の範囲内で少しは外に出てそれを足しにして。 ・多分中学高校が一番かかるんじゃないかと思っている。親はなんとかなると言うが、私の世代は貯金してから結婚・出産したいとみんな言う。漠然とだが不安でしょうがない。早く欲しいが貯金できるまでがまん。育児休暇をとるとしても1年間しかないので保育園に預けなくてはならなくて、お金は欲しいけど迷っている。 ・自分は年収800万だったが、年収400万の夫への尊敬心を保つために辞めた。北海道の企業は年収が低く昇給も少ない。物価も高くなっているしおもちゃも高いし習い事など出費の方が多く不安。児童手当は教育費のために貯金しているのですぐに使えない。 ・習い事など子どもビジネスの高騰がすごい。 ・今後かかる費用は全くわかっていない。児童手当は学資保険に使っている。 ・保険会社で子どもが成人するまでに漠然といくらかかるかを見るともうちょっと大家族は無理だなと。奨学金制度は詳しく調べていない。現実を直視する時期ではないシコ

	ワイので現実逃避している部分も。
女性 36-49 才	・札幌市は税金が高いのでそれが教育費とか医療費とかに結びついているんじゃないか。子どもは中学高校大学が一番お金がかかるがなんとかなるか精神。
	・高校大学の奨学金のことはまだそこまで考えられない。
	・高校生より先を思うとやっぱり教育費にすごくかかる。大学が地方とか東京となったら何か恐ろしいなって。今の生活でいっぱい貯める余裕がない。保険会社で私立と公立の場合を教えてもらってうちは公立って思っていたが、子どもが選んだのは私立だった。何とかなんとどんぶり勘定で考えていたがあの時ちゃんと考えておけばよかった。これからどうしようと思っている。
	・漠然とした金額を考えてどうせそんなにかかるんなら無理だなと。どうにかなるって声も聴くし、1,000万とかそんな桁出されてもどうしていいかもわかんないしというのが正直あって。
	・小学生から医療費がかかる。 ・漠然とかかるっていうイメージで警戒しているけど調べてない。コワイので知りたくない。金額が大きすぎて…。

② 子育てをする体力がない

◎男女ともに、それほど体力面の心配をする声は聴かれなかった。

<女性グループ>

◎出産後の育児のことよりも幼児期と一緒に遊べる体力があるかどうかの心配について発言があった。

男性 20-35 才	・今1人目生まれたのが30の時、もうちょっと若い方が楽だったのかなと嫁は言ってます。これが2人3人ってなればまた変わってくるかもしれないんですけど、体力って面ではまだそこまで感じたことはないかなと思う。
	・たまには休み欲しいって、土日くらいは子どもの面倒見てよって喧嘩になる時もある。正直言うと仕事よりも土日の子どもの面倒のほうが体力使うなって。どこかに1日預けて、夫婦でリフレッシュできる日があればいいなと感じる時はありますね。
	・まだ子どもはいませんが、半年に1回ほど甥っ子姪っ子と遊ぶときは、ずっと休まず走りっぱなしだったりして辛いなっていうのはありましたけど、毎日毎日そういう風ではないとは思いますが、別にそこまで心配はしてないですよ。遊ぶ時は遊ぶだろうし、休む時は休むだろうし。
	・そこに関しては妻と協力しながらってところかなとは思ってます。 ・晩婚化で結婚年齢がどんどん30代とって周りもそうになってきてますし、そうなるって仕事と子育ての両立ってのがすごく難しくなってきた。 ・うちのように3人いると、上の子が泣いたら下の子も泣くとか、親が2人いても1人余るんですよ。まだ上の子ども5歳なので甘えるときは甘えますから肩車してとか。そ

	<p>うなってくると手が一つ足りなくなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休みの日も仕事くらい忙しいという感じはやっぱりするので、預けて1日本当にリラックスする休みが欲しいなっているのは感じてます。妻の場合は週7で育児ですからね。色々苦勞はしてると思いますけどそんな中でも育ててますね。 ・全然考えたこともないし、まだまだ全然いけますね。好きで作ってるし、うるさい時はうるさいですけど、まだいいんじゃないのっていうくらい。子どもなんだから。
男性 36-49 才	<ul style="list-style-type: none"> ・体力で不安を感じたことはないけど、生まれたばかりの、当時の妻が眠れていないのを見たら、逆の立場だったら体力が厳しいかなと思う。 ・子どもが生まれて1才くらいの歩き出すまでは良いが、一番元気になってくるときに自分が40代に入ってくると体力がないって考えるのはあるのかなと思った。 - ・子育てが何才から何才くらいを言ってるかで変わってくるので一概には言えないが、恐らく大変だとは重々思う。 ・自分は2人いますけど、子育てする体力がないとは思ったことはない。あと1人子どもが増えると手が回らなくなるとは思ったことはある。
女性 20-35 才	<p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日外で一緒に遊んでいるので、36才になって男の子ができたなら同じことをしてあげられるか不安。 - ・夫が10才上なので全くついていけない。おばあちゃんの方が体力がある。 ・1人目は21才だったので寝なくても大丈夫で睡眠時間を削って自分の時間に充てられたが、今はとにかく寝たい。
女性 36-49 才	<p>—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齡出産一步手前で産んでいるので年齢的なことはある。このままの体力でもう1人増えたらどうなるんだろうかと考えたりする。 - - -

③ 手をかけて育てたい・一緒に過ごす時間を十分にとれない

◎まず、手をかけて育てるということの内容だが、母親と一緒にいて面倒を見ること、習い事をいろいろとさせるといようなイメージのようだ。

◎「母親が働くと手（時間）をかけて育てられない」「手をかけないのはかわいそう」「母親がいない＝寂しい思いをさせる」などという認識もあり、だから妻には子どもを見てあげてほしいとか、幼稚園までは一緒にいたいということになるようだ。けれども経済的なことを考えると働きたい・働いて

ほしいという場合もある。

<男性グループ>

◎手をかけて育てている、一緒に過ごす時間を十分にとっているというような人たちが多かった。とはいえ式出席のため半休や土日のことを指している。

男性 20-35 才	<ul style="list-style-type: none">・そうですね、あんまりこの2つは分かんないなって私は思います。幸い僕の会社も割と直行直帰がほとんどで、土日も割りとは休みが多いので。もちろんこういう意見の方もいらっしゃると思うんですけど、自分の中ではあまり分からない。こういう感じのことを考えた事がないので。・自分の時間が取れないって嫁はよく言っているので、こちらはわかる気がしますが。
	<ul style="list-style-type: none">・十分手をかけて育てたいがよく分からない。親が育てる以外に、周りに育ててもらっていうのもあると思うんで。・一緒に過ごす時間が十分に取れないっていうのに関しては、自分も忙しくて起きている間に帰れないとかあるので、分からないこともないかなと思うんですけど、休みの日があるからその日でいいんじゃないっていうのもあるので、ここは正直共感ができないところではありますね。ないなら作ればいいじゃんって考えなので。・手をかけたっていうのは習い事とかが含んでるのかなって。こういうの習わせたいとかっていうのが、もしかしたら妻はあるのかなと思いますけれども。なってみなきゃ分からないところがありますね。
	<ul style="list-style-type: none">・十分に手をかけて育てたいっていうのは僕の考えですけど、子どもが2人3人ってなっていった方が子ども同士でも成長していくので、一人完成してから次の子っていうような感じじゃない。・一緒に過ごす時間が十分に取れないっていうのはわかるけど、会社の方も配慮があって例えば進級式とか入学式みたいなときは休みを繁忙期の中でも午前休、午後休とか取らせたりもしてくれる理解があるので、非常に助かっています。妻が専業主婦ですので一緒に時間が十分すぎて困ってると思っているかも。
	<ul style="list-style-type: none">・十分っていうのがよくわかんないんです。別に自由でいいと思うんですよね。ある程度の常識さえ教えていけば。勝手に覚えるし。そんな丁寧な言葉遣いとか教えたこともないんだけど、ちゃんと持って帰って来るし。それでいいと思いますけどね。
男性 36-49 才	<ul style="list-style-type: none">・現状1人しかいないから1人1人に手をかけて育てたいというのはわからない。経済的な事で奥さんがパートに出なきゃならない現実があって、そこに時間を取られて子どもと関わる時間が足りないとかそういう話なのか？・生まれてすぐ奥さんの方から2才、3才になるまでは働かないで子どもを見たいと宣言があったので、わかったと。4才になってからパートに出だしたけど、短時間で幼稚園の時間内で働いているので、子どもには寂しい思いはさせないようにしている。
	<ul style="list-style-type: none">・変な見方で申し訳ないが、経済的に苦しいというのは言いたくない、体力がないって言いたくない人が1人、1人に手をかけて育てたいって言って言い訳につかっているように思う。・昔は兄弟が多かったんで、上と下の差が大きく、上が下の面倒を見る状態だったので

	<p>今とは違う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが小さい時に妻が働きに出る事に関しては、気にならない。
	<ul style="list-style-type: none"> ・出産予定日が9月で次の4月には復帰する予定を今から考えている。保育園をどうしようかなとか考えているところ。
	<ul style="list-style-type: none"> ・回答の意味が曖昧なのでわからないが、多分子どもに適切な色んな習い事などをやらせたって言うこと言っていると思う。その根本にある部分は、これをやらせた方がよいよ、あれをやらせた方がよいよとか、そういうことで意識を囚われすぎているのではないか。 ・家内が今16時くらいまでの勤務のパートだが、娘が離れて嫌がるようならやめようと思ったが、楽しそうにしているので、本人が良いなら良いかな。元々は自分もなるべく母親がいた方が良いのかなと思っていて経済的に考えても、働いた方が良いかなと。やってみてダメなら戻そうと思ったが意外となんとかあったので、お願いしますという形でやってもらっています
	<ul style="list-style-type: none"> ・娘と息子で趣味が違ったりするが、妻がいないときは3人でテレビ見たり、本を読んだり一緒に何かする感じで1人1人別々にはしないようにしているのでわからない。 ・妻は子どもが生まれてからずっと専業主婦で、いつでも働くとは言ってくれているが、自分の収入だけでやっていけているので、子どもたちといて欲しい。1番母親と一緒にいなきゃいけない時期なんじゃないかなと。鍵っ子とか自分の中で良い印象がない。子どもが帰ってきたら母親が待っているのが理想。
女性 20-35 才	—
	<ul style="list-style-type: none"> ・話し出すのとか立つのが3歳で終わるので成長を見届けたい。
	—
	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳までに脳が完成するとかいろんな知識をネットで知って、やらせたいことは全部一緒にやろう、手をかけよう決めていた。
	—
	—
	—
女性 36-49 才	—
	<ul style="list-style-type: none"> ・働くとどうしても手をかけたくてもかけられなくなってしまう。 ・上の子も下の子も同じようにかわいがってあげたい。 ・幼稚園に入るまではそばにいてあげたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・手をかけないのもかわいそう、3人4人となるとそんなに手をかけられないんじゃないかなと思う。
	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもがいるからいろいろ経費もかかってくるから、だから働かないといけないというのがある。補助や旦那の給料がもっと高ければ子どもといられる時間が作れるのに。
	—

④ 仕事にさしさわりが出そう・仕事を続けるのが難しくなりそう

<男性グループ>

◎仕事に対する影響はないようだ。さしさわりが出るほど育児に関わっている男性が少ないとか妻が専業主婦で全面的に育児をしているから大丈夫ということらしい。

◎女性の復職について、実際は難しいのではないかという声も。このため妻が公務員に転職した例もあった。

<女性グループ>

◎子どもが病気になると本当は病児保育を利用したいが、利用できないので仕事を休まなければならず、収入が減ったり職場に気を使ったり、有給が取りづらい、逆に有給を使い果たしてしまうということが課題として大きいようだ。

<p>男性 20-35 才</p>	<p>・これはアンケートの結果みてもほとんど女性ですよね。逆に言うと男性はどちらかというところではもう女性に任せちゃうところはあるんですけど。経済的な心配でというのはあると思う。</p> <p>・自分の周りでは仕事にさしさわりが出そうってほど、育児に忙殺されてるって感じじゃないのかなっていう。</p>
	<p>・妻が風邪引いたとかで子どもがなったらそういうのも思いますけど、今日家で仕事しなすって事してるものですから、そんなに感じないですね。</p>
	<p>・妻は長男の妊娠9か月で退職して、そこから復職は考えなかった。妻自身に仕事と子育てを両立しながらとかっていう考えがなかったし、また自分も保育園に預けて共働きって事があまり受け入れられなかったというか。小さい頃は家で育てたいみたいな考えがあったので。</p> <p>・今現時点でも妻の環境というか、妻自身ストレス耐性が弱かったりすることもあるので、職場のストレスと育児のストレスを両方抱えたら爆発しそうなので、無理して稼ぎがなくてもいいってことで妊娠を機に出産前のタイミングで辞めました。そんなにばりばり働きたいという感じでもなかったですし。</p>
	<p>事務所の事務関係の仕事を一時的にやってもらってます</p>
<p>男性 36-49 才</p>	<p>・結婚した時には派遣社員で結婚を機に辞めて1年間専業主婦で子どもができてそのまま継続。出産で仕事を辞めた訳ではない。</p>
	<p>・結婚した後はそのまま2人とも仕事をしていて、子どもができてお腹が大きくなって動けなくなってきた時に物を運ぶような仕事は無理になり、一時的に電話サポートのような座り仕事に変えて出産の時に辞めて、1年間休んで別の新たな職場に就職。</p> <p>・20代でこの理由がグンと上がっているのはわかるような気がする。未婚の20代なので仕事が面白くなってきて、一番バリバリやりたい頃ですね。</p>
	<p>・どこの一般企業も今までのキャリアを産後も継続するのはほぼ無理だと感じる。例えば、職場で女性が子どもを産んで1年間産休取って復帰したとしたら同じポジションにいられるか、そのまま継続できるかって言われると非常に難しいところもあると思うので、そういうのもあり妻は公務員に転職した。公務員であれば出産しても継続して働く</p>

	<p>ことができるだろうと思ったので。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結婚当時は同じ会社で辞めざるを得なかった。結婚した時に、離れた場所で働いていたので、結婚した時にこっちに来るには辞めなければならなかった。今は同じ会社にパートとして復帰したけど。最初から正社員では戻れなくて、一旦パートになって契約社員になって正社員に戻る形。仮にそのまま働いていたとしたら、キャリアに大きな差が出ていたと思う。 ・結婚する前、妻は派遣社員で事務の仕事をしていた。上の子が来月小学校に上がったから扶養範囲内でパートの仕事をする予定。
女性 20-35 才	<ul style="list-style-type: none"> ・病後児保育を利用しているが時期によっては全然利用できない。自分の親も働いていて夫も夜も働いているので誰も見る人がいない。保育園にも預けられないので、公的なサービスが拡充してくれたら私も 2 人目というのが現実に見えるかも。 ・自分が非常勤扱いで休むと給料が減る。配偶者が公務員で育休がとれるので助けられている部分があり、民間の企業もそこが進むと良いと思う。 ・アルバイトをしていた時は休みづらかった。それが理由で辞める人も。アルバイトに有給があることを知らない人が多いと思う。 ・正社員で働いていた時は育休、時短と女性活躍推進に力を入れていたので周りは休んでいました。 ・ネイル業界だったのですが予約入っているので体調悪くても休めなかった。子どもがいたら絶対できない。復帰しても土日祝日は必ず出社ですし。子育てには向いていない。 ・子ども産んでからも育児手当が出る職場を探している。女性ならではの福利厚生がしっかりしているところ。 ・内閣から認定受けているような会社だったのですべてしっかり整っていた。10 年以内なら同じ役職で同じ状態の立場から戻してもらえる復職制度があるので、もう 1 人子どもができなければ復職を考えている。 子どもが病気の際はパートを休んでいる。休みやすい職場はなかなかない。 ・お母さんと同居しているので心配ない。何かあったらお母さん神様みたいな (笑) ・以前はフルタイムで働いていたがいわゆるブラック企業で、妊娠したらはい辞めてください、有給とりますと言ったらなんで?と言われ…という感じだったので働き続けるのは無理だと思いました。 ・みんながみんな理解してくれているわけでは無いし、自分が嫌味を言っていることも多分わかっていないと思う。一緒に働いている人の理解が 1 番。もうちょっと快くみんながサポートできているところだったら気持ち的には楽かな。
女性 36-49 才	<ul style="list-style-type: none"> ・小さい子がいる自分を採用してくれた恩に報いようと頑張っていたら今の状態になってしまった。 ・変な役職だけついて手当もらうけど 5 時に帰っていいのかと悩んじゃう。恩恵があるんだかないんだかわからない。 ・出産ギリギリの年齢になった時に、働いていると精神状態とか体の問題もあるし、悩んだけれど契約が切れるときを機に辞めた。 ・仕事に行くとその人の背景は関係なくなるので両立が難しくなる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済的に私が働かないと子どもを大学に出すことができないので仕方なく夜勤をしている。全員が働きたくて働いているわけではない。 ・ 病児保育が使いたい時に使えない。本当は病気の子を置いていきたいくはない。前の職場で子どもの病気の時に休める休暇があつて、それを使って休んでいる人もいた。それをとりやすいところだといひ。毎年有給があつて0.5とかマイナスになるとかつていう戦いですね。
	—
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園と預かり保育を利用したが、お風呂、ご飯、送り迎えと大変で続かなかつた。娘のことで休むのに自分のカゼでも休むなんて…これ以上休めないプレッシャーがすごかつた。

⑤配偶者の家事・子育てへの協力が期待できない・親の協力が期待できない・保育サービスを利用できない

<男性グループ>

◎親や夫のサポートが期待できないので子どもの数を増やさないというような発言はなかつたが、両親もまだ働いていたり、離れて暮らしてたりとあてにはできないようだ。また、男性は大方自分はサポートしている認識のようだった。

<女性グループ>

◎保育所は子どもを預ける条件として最低就業時間を設けているようで、非正規雇用の場合、病気などで休んだり、勤務先の都合で時間が減つたりすると条件を満たさなくなつてしまう。このハードルが低ければ安心して仕事もできるし子育てにも力を入れられるという声があつた。

◎他の項目でも上がつているように、病児保育は重要事項。

男性 20-35 才	<ul style="list-style-type: none"> ・ 僕の中では1番大きいです。自分の両親は両方とも定年してつるんですけど、犬を預けないとこつちに来れないし、逆に家内の両親はまだ働いてつる中、北海道まで来てもらつてつるのもお金もかかるし。なので自分がサポートしなくてはつけないのですが、家内はもっと協力してよつてつるのはもしかしたら思われてつるかもしれないですけど。 ・ 保育サービスも一応一時保育みたいなのにつる週2日預けてはつるんですけども、それも結局週2日、10時から12時までとかなので。結局家内曰く、準備して買い物してちよつと部屋掃除して。またすぐ迎えに行かなきゃみたいなの感じなので。探せばあるのかもしれないんですけど。 ・ あとは今年つる4月から幼稚園に入るので、少し変わつてくれればつるいいなと思つてつるところではあるんですけども。
	—
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己評価はつる高いんですけど、どう思つてつるかは別ですね。例えば茶碗洗いとつる掃除機かけたりとかしつるつる子どもとつる遊んで。寝る時間ちよつたつる時には1時間ならつるいいよ

	<p>とかって話をしながら土日は過ごしてますけど。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親の協力が期待できないので、幼稚園の延長保育が安くて、突発的に、二人で出かけなきゃいけないからどこかに預けるみたいなのも幼稚園では対応して頂いてるので。結構それは助かってますね。ただ丸1日預けたりとか、できないというかそういうところを知らないというのもあるんですけど、夫婦の時間が欲しいって時には中々子どもたち全員預けてまではやっぱり。親とかだったら楽しいと思うのであれなんですけど、全然知らないところに3人とも預けてっていうのは心境的にはちょっと難しいです。 ・根本的に親の協力が必要としてるんだったら子どもを作らない方がいいと思う。自分達でどうにかできないんだったら。根本的な話ですよ。いつまで親についていうのも僕自身はあるし。 ・自分で会社やってて家と会社と一緒になんで、子どもたち帰ってきたらトラックとかショベルに乗せてあげたり。そんなので良いと思うんですよ。十分な時間を取れないとか言うけど。
男性 36-49 才	<ul style="list-style-type: none"> ・足りてないと思うけど、してはいるつもり。皿とか洗うと「汚いから洗わないで」と言われる ・札幌出身ではなかったが親が札幌に引っ越してきた。うちの場合は実家がないと、子どもが小学生で、子どもの預け先がない。家に戻る時間が2人とも20時、21時になる場合があるので父に預かってもらう、土日なら朝から預けておく。 ・ずっと共働きだったので、家事は2人で分担してやってきたので、今後もその流れでいくのかなと思う。 ・ほぼ全般をやっています。朝、一番最初に起きるのが私で。仕事から帰ってきてても、家内は寝かしつけをする時があり、そのまま寝てしまう時もあるので、そのまま後は私が全部やる。土日も担当は私です。料理から全て。 ・子どもの風呂は担当しています。
女性 20-35 才	<ul style="list-style-type: none"> ・保育サービスが月に何十時間以上働かないと働いてるとみなしませんということになってしまふ。自分は非常勤なのでギリギリ。このハードルが低ければ安心して仕事もできるし子育てにも力を入れられる。 ・親は微妙に距離が離れているので期待できない。主人はやってくれそう。保育サービスはよくわからない。 ・全部不安ないと思っている。両親も近くに住む予定だし、旦那の仕事も8時から7時までで家事も今もやってくれている。パパの教科書というのを買ってびっくりしている。 ・配偶者の協力をかなり得られているし、両親と主人の両親も何かあれば駆けつけてくれるというすごくいい環境で子育てできている。 ・主人の仕事が遅い時は11時過ぎに帰ってきて、疲れているからお風呂も入れてくれない。面倒を見てくれる時もあるがただ甘やかしている。歩いて15分のところに実家があるのでこちらの方を頼りにしている。 ・夫にはなつかないが母が同居しているので大丈夫。 ・あまり夫は協力的ではない。家事も育児も仕事もフルで私がやる感じ。
女性	<ul style="list-style-type: none"> ・母が保育園の送り迎えも全部やってくれた。正社員で仕事しなさいと言ってサポート

36-49 才	してくれた。
	・夫、自分ともに札幌に実家があるのでみてくれる。姉もみてくれる。
	・親はあまり頼れない状況。主人もあまり男の人が子どものことで休むって時代じゃないので…
	・働こうと思っても就職先が決まっていなくて預け先がなかった。結局高い無認可の保育園しかなかった。
	・私の母が結構見てくれる。
・病気の時は老人に病気を移せないで親に預けられない。母は専業主婦おすすめタイプなので仕事で預けられない。旦那のお母さんは仕事をしている。	
・マンションの1室でやっているような無認可保育園は絶対入れたくない。	

(3) 親からのプレッシャー、友達に対する憧れについて

◎男女ともに大方親からのプレッシャーはないようだ。友人への憧れも特にない。

◎ひとりっ子の場合は結婚や出産に対して親や親せきからプレッシャーが比較的多いようだ。

男性 20-35 才	・姉も男の子1人で、うちも男の子なんで女の子が欲しいねっていうのはたまに言われたりはします。でも別にプレッシャーになるほどではないし、我々夫婦としても女の子欲しいっていうのもう1人欲しいなって話はしてあるので。
	・数で憧れたことはない。うちは女の子がとにかく欲しいので、やっぱり女の子の写真とかがSNSで挙がっていると女の子可愛いなみたいな。
	・僕の方は兄弟に子どもいるので圧はないんですが、嫁の方はもしかしたら言われていたりすることはあるのかなっていうのは思いますね。実際あるかどうかはわからないですけども。結婚する前の方があったかなって感じはします。
	・5人いる友達もいるけど数でうらやましいとは思わない。生まれたばかりの子どもがいるとうちも欲しいねっていうのはありますね。
・プレッシャーはないです。	
・女の子がいないのでほしい。親も兄弟も性別が偏った家系なんです。そういった意味では両方育ててみたいっていう気持ち。	
・数に関しては別に何ともないですけど、プレッシャーと言えば学校関係勤めてるので2人産んでも人口は下がるんだぞと。3人以上が学校職務の務めだみたいな、パワハラじゃないですけど。そういう話をフランクにする法人のトップの人はいましたけど。	
・3人いるのでプレッシャーもないし、うらやましくもない。	
男性 36-49 才	・僕の親戚の方では無かったが、奥さんがひとりっ子だったのでよく言われていた。親からも親戚からも。
	・元々子どもが好きなので、甥っ子を可愛がり、当然子どもが欲しいしできたらできたで激可愛がり。対象が遠いところから近いところに来た感じ。
	・ありましたね。父が長男で、私も長男で結婚が遅かったので、まだできないの？というのが、70代くらいになる親戚に。この人はそういう人だから仕方がないと流していた

	<p>けど。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複雑な事情があったので、子どもは嫌いじゃなかったし、子どもと一緒にいる人たちを見て幸せそうで良いなと思うのだけど、自分はその中にはいけない人だと思っていた。 ・ありますね。無言のプレッシャーが。自分たちが欲しいなと思って不妊治療もしていて、それも伝えているので余計（周り）は）言えない状況だった。 ・子どもそれだけがいて大変だなんて思うより子どもがいた方が良いなと思うことの方が多かった。
	<ul style="list-style-type: none"> ・うちはあまりなかったです。 ・私は子どもが欲しかったので、周りや友人を見て羨ましいと思っていた。ただ家内は姉の子どもを見て大変そうだから嫌とずって言っていた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分がひとりっ子なので孫の顔が見たいとか、結婚しないと親が亡くなったら 1 人しかいないからとか、そういうプレッシャーがあった。 ・見ていて、すごく幸せそうだな、自分もこうなれたら良いなと思うことがあった。
女性 20-35 才	<ul style="list-style-type: none"> ・全くなかった。 ・結婚のあいさつの時とその後、それとなく言われている。 ・自分の両親は全くない。夫の両親が東北で早く孫の顔が見たいと言われたが、自分たちもやりたいことがあるので 2～3 年は作らないと思いますと言ったら言われなくなった。 ・どちらからもなかった。結婚のプレッシャーは一人っ子だったので強かった。母が女の子が欲しいのもうすぐ作らないと産めなくなるよというプレッシャーは与えられている。 ・できちゃった結婚だったので特にプレッシャーはない。 ・全然プレッシャーはなかった。 ・男 2 人だから女の子をと義理の両親から言われている。
女性 36-49 才	<p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多い方が偉いっていうのがある。ちょっと威張っているかなっていう経験があるので。

(4) 希望の子ども数、完結出生数が札幌で少ない理由

<男性グループ>

◎平均所得が低いので将来に対する経済的な不安が背景にある。

◎土地が安い、補助金や遊び場を充実させた通勤可能な近隣市町村に子育て世帯が流れている。

- ・札幌近郊の市町村で家を買う子育て世帯が多くなっている。
- ・江別市は子どもが無料で遊べる場所も充実していて子どもが増えている。

◎晩婚化、独身が多い傾向

- ・札幌はやる事がいっぱいあって充実できるので結婚も遅くなる。
- ・結婚に対して憧れを持っていない人が多いように感じる。自分の時間の方を楽しむことを選ぶ。
- ・大学出身者が多いので社会人になって夢中で仕事をしているうちに30手前になってしまう。
- ・札幌出身でない人が多く、遊ぶ場、働く場になっているのでは。

◎その他

- ・離婚率が高いのもあってシングルマザーの比率が高いのであれば、再婚しないと次の子どもは生まれない。

<女性グループ>

◎子育てしにくい

- ・ボール遊び禁止、遊具撤去など子どもが遊ぶ場所が少ない、地域のつながりが薄く大人の目が行き届かない。連れ去りなども心配。

◎医療費や住宅面で子育てに手厚くない。

<p>男性 20-35 才</p>	<ul style="list-style-type: none">・今の若い人って親の経済的などところも含めてだと思んですけど、漠然的に将来に対する不安っていうのがあります。・私は他の地域から来て聞いた話ですが、割と衣食住にかかるお金がかからない分、あまり平均所得が他の規模の都市に比べると高くないっていうのは聞いてはいたので。そういったところも子育てっていう、自分達の最低限の衣食住はともかくとして、そこが子育ての面に手が回らないのかなって思った。・家庭持つ際にもうちちょっと札幌近辺で、子育ても含めてお金かからない街に家を買ったりとかいう人も多いので。
	<ul style="list-style-type: none">・子育て以前の問題だが、自分は遊んでたらいつの間にかこの年になってて。結婚も遅くなってから子どもがいないっていう現状ができあがってるんですけど、やる事がいっぱいあるから充実しちゃってるのかなって思います。大学とかで来てすぐまた出て行っちゃうとか。独身の人が多そうなイメージっていうのはありますね。・前の会社とかで出会わないからね、みたいところで結局少なくなっちゃう部分はあるところもあるのかなとも思う。
	<ul style="list-style-type: none">・隣の江別は子どもが増えたって聞いてます。結構無料で遊べるところも充実しているので、厚別区から遊びに行ったりもしています。・妊娠出産っていうよりは、結婚っていう一つのハードルというか。それもあるんじゃないかなと。結婚に対して憧れを持ってない層が多いっていう風にも感じた事があります。職場でも結構独身の方多かったですよね。それなりに稼いで、家族とかに憧れがなかったら変に結婚しなくてもむしろ自分の時間もあり、お金もあり、イエイみたいな。・趣味が多彩だと北海道って自然も豊かですし、札幌は栄えていて色んな趣味ができますよね。あえて子育てを選ばなくても楽しめるというか。逆に言えば僕出身は田舎の方

	<p>は結構結婚早いんですよね。弟とかもそうですけど。高卒2年目3年目とかで結婚した感じなので。札幌は多分大学出身とかも多いと思うので、全然結婚出産とか考えなかったってうちに28とか30とかになっちゃうのかなって気はしますね。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・江別とか三笠もそうですけど、周りに札幌から奪ってやろうみたいな街がライバルとして多いのかな。そこからある程度、1時間とかの範囲で通勤できたりもするので、子育て世代はそっちに取られてるのかもしれないですね。
	<ul style="list-style-type: none"> ・そもそも札幌にいる人って札幌出身じゃない人が多い気がする。遊ぶ場所、働く場所って感じがする。
男性 36-49 才	<ul style="list-style-type: none"> ・わかりません ・もしかすると、個が個として生活し易いのかもしれない。そういう中で生活してきている事で、子どもが欲しいと思わない人たちが増えてきている。 ・離婚率が高いのもあってシングルマザーの比率が高いのであれば、再婚しないと次の子どもは生まれないでしょうし。その人は子どもが増えていかないというパターンがある。 ・色々な生き方や、色々な選択肢が多いのかなと。離婚にしても女性が働いたりとか、趣味を楽しんだりとか、他の地域に比べると暮らしやすい、1人で楽しめてしまうっていうのがあるのかな。 ・札幌は土地が高い。家を建てる時に北広島、江別、恵庭を勧められたので、それが理由にあるのかもしれない。 ・独身の友人の話だけど、北海道じゃ稼げないから地方に働きに行くっていう人がいたので、それも理由なのかな。
女性 20-35 才	<p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人の時間がすごく充実する町だからか。自分で稼いで自分の好きなことをやって自分磨きもできて自分のペースで働いて。 ・近くの公園でもボール遊び禁止、遊具撤去。何もない公園で何をして遊べば？子どもが遊ぶところが少ない。 ・地域のつながりがなくなり子育てしにくい時代。
女性 36-49 才	<ul style="list-style-type: none"> ・室内で遊べる公共の遊具スペースみたいなのが少ない。 <p>—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療費や住宅面で子育てに手厚くないから。 ・連れ去りとか安全面で昔と違って不便が多い。 ・お菓子をもらいにいく風習などが減っていたり、遊べる大きい施設がない。 ・札幌市は離婚している人も多し煙草を吸う女性も多いとか、昔ながらの考え方をす

る人が少ないような気がしている。今までの理想とする家族を理想って思わない人が多いのでは。シングルマザーを希望する人にもサポートがあるとかそういうアピールがあってもいいのかな。 ・市内は大人対象が多くて子どもの遊び場をあまり目にしない。イオンしか行けない。
--

(5) 希望の子ども数を達成するには

<男性グループ>

◎休みやすい職場環境

- ・フレックスな出勤体制など継続して育児の支援になるような制度を男女両方がとりやすい職場。
- ・男性も育休をとって子育てするのが当たり前の社会。

◎子どもが地域で安全に遊べる

- ・顔見知りの方の見守りサービス

◎教育

◎情報開示・伝達

- ・子育てについてのことや市の支援事業について理解が促進されるようなこと。

◎給与が上がっていくこと

<女性グループ>

36才以上のグループの参加者1名の発言が象徴的だった。

「子どもを産む時にサポートがあり、産んでからも週何時間かシッターさんが来てくれて、保育園はの中から選んで絶対入れますというように、小学校くらいまでの見通しがたてば、産むのは全然大丈夫。自分が働くところも保証されていると見れば。理解があってお互い協力して仕事ができる職場。」

◎復職制度の普及

◎150万円の壁など配偶者控除の枠を無くし、働きたいだけ働けるようにする。

◎保育園の待機児童解消と保育料無償化

- ・産休育休があっても預け先がないと復帰できず結局辞めてしまう。

◎男性の育児参加、育休取得、有給をとりやすい職場環境、残業軽減、両親学級を土日や夜間に実施

◎通学定期無料

- ・地下鉄定期が大人料金で通学費がかかる。

◎高校の給食

◎子ども3人以上世帯には家賃補助

◎不妊治療の医療費補助

◎正社員の定年引上げ

◎賃金アップ

<p>男性 20-35 才</p>	<p>・今の会社だと、1週間とか2週間とか育休とかは取れて使う人もたまにいますけど、育児ってずっと続いていくもので、その1週間取っても解決にはならないので、それよりも例えば保育園とかの送迎をしてから出勤するので、フレックスな出勤体制を取らせるとか。夕方もうちょっと早くあがらせてみたいな感じのところとか継続して育児の支援になるような取り組みの方がいいんじゃないかなって感じているので。</p>
	<p>・生まれたばかりの時に取ってというより、産まれて1年とか半年以上経ってから1ヵ月くらいとかなら取れるものなら取りたいと思います。それを知ってもらうために、これだけあるんだったら子ども産もうかっていう者よりかは、興味を持ってもらうってところから始めていって、こういうことやってますじゃなくて、こういう事をやりますっていう段階を踏んだもの。</p> <p>・子ども欲しいから行政何やってるのかなと調べる人って中々いないと思うんですよ。結婚したら子どもが欲しいよねという風になってくるんだったら結婚式場とか、一番近いところにターゲットを当て込んでいって行政で何をやっているか、入りやすいところから周知したほうがいいかなと思います。周りに子どもがいなかったら不安なところもあると思うし。</p>
	<p>・職場で例えば男性皆取ってて、自分だけ取ってないみたいな環境であれば多分取るとは思うんですけど。制度はあるので上司はうんと言わざる得ないと思いますけど、多分一緒に働く周りが許してくれない形になると思う。取るのが当たり前っていう状況から始まらないと取得は難しいのかなって気はしますね。</p> <p>・個人的には何ヶ月取れるというよりも、子どもの誕生日のために必ず休みとか。実用的でいいと思う。</p> <p>・中途半端な補助じゃなくて、無償とか。それこそ今6歳、7歳くらいまで医療費無料ですけど、それもある意味で当事者じゃなかったら知らなかったっていう事もありますし。</p> <p>・中途半端な補助をするよりかはいついつまで無料ですとかっていう話をインパクトを持ってやった方が、ここは子育て支援をしている行政なんだなっていうのを知らせるのが大事。</p> <p>・子どもを1人で近所の公園に遊びに行かせるのも怖いので、親がついていなくても顔見知りの見守りサービスみたいな人がいるといい。</p> <p>・育休が生まれたばかりの赤ちゃんの時にしか使えないんだったら別に男が休んで何するのって話だと思いますけどね。</p>
<p>男性 36-49 才</p>	<p>・経済的な問題なので物価や家賃、教育費が全体的に下がってくると良いなど。財政の事とか無視して、家賃とかUR賃貸みたいに格安で入れる所が市でいっぱいあったら少し浮いたお金で、となるのかな。</p> <p>・男女の付き合いすらなくなってくる若い人たちが多くなってくる中で、結婚したとしても子どもを持つことのデメリットばかりがインプットされると子どもを作ろうとは思わない。それを払拭できる何か働きかけを小学校くらいから、その子達がわかる範囲で話していくっていうことも必要なかなと思う。</p> <p>・お父さんの子育てに関しては「イクメン」という言葉があまり好きではなくて、やれる事をやれる方がやれば良いと思っている。</p>

	<p>・今の子どもたちの親の世代が景気の良い時代を知らない人たちがどんどん出てきていて、お金を使う事を知らない人たちが増えてきているのではないかなと思う。そういう人が親の世代になってきた時に、子育てって基本的にお金が出ていく事なのに、そこに意識がいくのかなという不安がある。例えば市や会社の補助でお金が入ってきても、どんどん貯える方に回ってしまって、結局、子育てに向いていかない。根本は景気とかお金の問題になってくるとは思うが、お金を使うっていう事を知らないっていうのが怖いなっていう思いがある。</p>
	<p>・男性の子育て参加、手伝いではなくて男性が子育てできるような環境・社会が欲しいなと思う。当たり前のように男性が育児休暇を1年、2年取って子どもを育てるとか。それが今は女性しか社会的にも環境的にも許されてないというか、女性がするものだっていう意識がある。働く女性も多くなってきていて、社会進出も進んでいるので、特に女性が、男性がっていうところは必要ないと思っている。育てる環境、育てる人が増えて行けば、もう少し子どもを作ろうかなと思える人も増えてくるかなと思う。</p>
	<p>・市と市民の距離が遠いと思う。何を頼んで何をして、どういう風に調べたら良かったかというのが一切わからない。自分たちにどれだけのことをしてくれて、どれだけの情報があるのかという開示が分かりづらいと思う。子育てってこういう形だよ、こういうことが出来るよっていうものが、もう少しだけ若い世代のうちから馴染みがあったり、教育が良いのか、行政の出張サービスや相談サービスがあれば良いのか分からないけど、距離感があれば。これだけの支援があるっていうのも受けてから知るというか、幼稚園や病院を通じて知ることが多いので、何かもう少し私たち自身が知れるものがあったら良いのではないかな。そういうものがあると少し意識が違うのではないかと。自分でやりなさいよっていう風を感じられている気がする。</p> <p>・貯め込み傾向については昔と違うのは明らかに働いても所得が上がらない。それは会社が悪いとか景気が悪いではないけど、何をやってもそんなに所得が上がらない時代に入ってきていると、若い人たちが薄々感じていると思う。私たちより上の50代・60代の世代は働けば所得に還ってきた時代を経験している人たちなので使うことに慣れているが、私たちはその保証が何もないので基本的に貯めるとか無駄を省くとか、将来的に大丈夫なの？という不安しかないのでは、そこが根本にあるので、消費の方に向くっていうのは難しいと思う。</p>
	<p>・職場で今後、家族手当が子どもがいる人は貰えるが配偶者だけの方は貰えなくなる。会社では子育て応援と言っているが子育てが終わった人が多いのでかなり文句が出ている。市の方でも子どもができたらかような情報を出せばいいのでは。子どもが出来てからわかるのではなくて。</p>
<p>女性 20-35 才</p>	<p>・キャリアを保つての復職制度があれば。</p> <p>・男性の育児参加。育児は女性、仕事は男という考えがまだまだある。制度や職場の体制があったら。</p> <p>・公務員でも男性は育休を産後にすぐはとれない（早く産まれた場合も申請通りになる）。すぐとれるようにすれば産後うつとかなくなるのでは。</p>
	<p>・旦那が育休とれるとしても何もしてくれないくらいなら働いてほしい。</p> <p>・派遣は時給はいいけど育休産休とれてまた戻れるのかな？</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 150 万円の壁みたいなのを取っ払って、扶養の幅や配偶者控除の枠を広めてくれれば、フルタイム正社員でがっつり働くほどではないけれど、フルタイムパートならしてみようかなと思うが、壁があるために狭められてしまう。働くか働かないかで考えると私が扶養でいて旦那さんの会社で不要手当頂いて保険も払ってもらった方が、同じ大変そうなら扶養でいいじゃん、って思っちゃう。 ・ 大学資金について。高卒採用の幅を増やしてくれば、わざわざ大学に行くこともない。 ・ 検診は同い年の子が集まるから親も仲良くなる。(転勤で来た人がママ友作るには良い機会では)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 両親学級。平日しかやっていない、しかも一番おそくて 17 時だと夫が参加できない。 ・ 男性の育休がとりにくい。社長部長が the 昭和有給も取りづらい時代遅れな会社。 ・ 派遣会社は希望がかなえられて働きやすい。 ・ 今年扶養に入った。計算がむずかしく、どこに聴けばいいのかわからなかった。 ・ 3 人産んでしまったら、1 人 1 部屋欲しいとおもうので、大きい家に住むとお金がかかりますよね。北海道の収入のラインを上げてほしい。 ・ 不妊治療の医療費を安くしてあげないとかわいそう。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 60 歳からの再雇用制度は給料が急激に減るので、正社員雇用を 63 歳とかまでに引き上げてもらえれば。自分たちの老後が心配になっちゃう。 ・ 保育園や幼稚園の質によって人気に差が出ている。 ・ (転勤で札幌に来た方には) 児童館に行けばママ同志もあつという間に友達になれるので良いのでは。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 休みやすくて時給のよい就職先。 ・ 子どもが増えたらもっと大きい家に引越ししなければならぬし家賃も上がる。 ・ 3 才までビッチリ見れないぐらいだったらもう 1 人ほしくない。 ・ 旦那は専業主婦でいてほしくて自分も専業主婦が良い。けれど家計のことを考えたらとパートに出ている。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不妊治療に対する援助。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 育休産休がどの会社でも取れればいいな。保育園の待機児童の解消と保育料無料化。産休育休があっても結局預け先がないと復帰できなくて伸ばして伸ばして結局辞めちゃう。 ・ 主人の給料だけではやっていけない。せめて小学生までは医療費を無料に。頭ぶつけて CT 撮って 7,000 円の出費など結構ある。
女性 36-49 才	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目に見える子ども向けのサービスがほしい。例えば札幌市の地下鉄の定期は中高生は大人料金になってしまい、通学費がかかるので。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夫がそれなりの給料を得て経済的な潤いがある生活にならないと安心して子どもを産めない。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園を老人の施設の隣にしたり一緒にする。 ・ 夫がもっと給料もらってきたら。自分はフルで働かなくてよくなるしそんなに責任を

<p>持って働かなくても、休める職業についてもいいわけだし、働かなくてもいい。自分のストレスがないのと経済的に潤っているんだったらもう1人産もうと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市で安く小学生のスポーツクラブをやってほしい。 ・高校の給食。夜勤で作れない、あったかいものを食べさせたい。 ・自分の職場での夏冬休みがほしい。こどもが少しでもひとりで過ごさなくて済む
<ul style="list-style-type: none"> ・男性も1~2日は快くいいよってしてくれる職場、子どもを連れていける職場、職場の近くにくつつかの企業が共有する保育所を増やす。 ・通学定期無料 ・家族手当、住宅補助。税金を引かれず手当が増えてくれたら。
<ul style="list-style-type: none"> ・ママばかりが大変なのは時代に合っていない。子どもがいてもいなくても、徴兵制度みたいに介護か育児に1年ずつ必ず関わるという条例を作る。 ・産むだけなら全然大丈夫。産む所もサポートがあり、産んでからも週何時間シッターさんが来てくれますとか保育園はこの中からどれに絶対に入れますという、小学校くらいまでの先の見通しが立てば。 ・自分が働くところも保証されてるって見れば。理解があつてママがいっぱいいる職場とかお互い協力してできるとか。 ・男性も早く帰ることができれば。 ・子どもの夏冬休みを2週間にしてほしい。

D 有配偶者で子どもを希望しない既婚者グループの結果

(1) 子どもを持たない考えに至った経緯

<男性グループ>

- ◎自分も相手も結婚が遅かったのも、それぞれやりたいことをやる暮らしに慣れてしまっており、子どもを持つことでそれをしない生活に変えるという考えに至らなかった。
 - ◎結婚が遅いと子どもが大学を卒業する時に60才。現役を退くころまで面倒を見るというのは怖い。
 - ◎妻のキャリアアップのため。
 - ◎夫婦仲を良くしてるから邪魔が入るとすら考えてしまう。この状態で満足。
- というような経緯を聞いた。結婚が遅いこと、仕事の継続のため、夫婦で満足。

<女性グループ>

- ◎子どもを持つ前提で結婚したが、お互いの給料が上がらず2人で生活するだけでも大変な生活に。しかも親の夢を叶えるための結婚式を挙げたり、家を購入し子どもを持つ余裕をなくしてしまった。さらに体調を崩して投薬中でなおさら無理な状態に。
 - ◎体が弱くて出産のリスクがある。
 - ◎職場が忙しくて自分も夫も休めない、子育ては大変そうだが実家の協力も得られないので無理ではないかと思っている。
 - ◎北海道は自由だから子どもがいなくても肩身が狭いことはない。
- 低収入や結婚式・住宅購入などによる資金余裕のなさ、体が弱い場合の出産の母体リスク、子育て負担の心配など。

<p>男性 20-49 才</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が37才、相手が33才と結婚が遅めだったので一人暮らしの生活に慣れてしまった。 ・妻がキャリアアップを目指している。 ・自分たちがやりたいことをやっているのを子どもに割くという考えに至らなかった。 ・今第一子が生まれたとして大学卒業の頃には60才過ぎてしまう。現役を退くかどうかまで子どもの面倒を見なきゃならないというのは怖い。
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が25才、家内が28才での結婚だったので、慌てて結婚をしてすぐに子どもの事を考えるにはやめようと思った。 ・家内が30才の時にどうするかとなって、でもまだいらねえ。とそのまままだいらねえ。が続いていくうちに本当にいらなくなってしまう。 ・本当に夫婦仲良くしているから邪魔が入るとすら思ってしまった。この状態が続くなら永遠になんの不満もないね。となって。 ・子どもは好きですが、甥っ子姪っ子と遊ぶくらいがちょうどいい。
<p>女性 20-49 才</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが3人欲しくて同調してくれる相手と交際、結婚したが、その後お互いの賃金が上がらず、2人で生活するだけでも大変苦しいのに、相手の両親から結婚式をあげろ

	<p>と言われ、2人でお金を出した。</p> <p>その後、家を購入してお金がないので、子どもを作る余裕が一切なくなってしまった。今のところ絶対子どもを作っても養えないので、子どもを持たないという考えに移行しようと自分で勝手に思っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体調を壊し投薬中なので、この状態で子どもが産まれたら共倒れになってしまうから。
	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを産むころから、体が弱くて病気を持っています。その病気で子どもが産めない訳では無いのですが、出産のリスクを考えたらあえて子どもを作ろうとは思いませんでした。 ・夫と2人で話合った訳ではないのですが、「お前の体のほうが大事だ」と言ってくれるので。 ・絶対に子どもを持たないようにしていた訳ではありませんが、結果的には出来ませんでした。不妊治療もしていません。 ・でも、もし出来たら何とか産むしかないと思ってます。
	<ul style="list-style-type: none"> ・低血圧で仕事もしていて、夫の収入だけで夫婦2人は生活できると思うが、子どもまでいたら、生活できないって感じた。 ・周りで働いている人は、実家の協力があるが、私にはない。 ・職場が忙しくて、私も夫も子どものために休んだりできない。 ・子どもは嫌いではないけど、びっしり相手することできないんじゃないかなとか、あまり夜中に泣かれたりしてもちょっとついていけないって思う。 ・夫が高いものを買っちゃったりして、それを子どものために我慢しろというのは、酷く感じる。 ・30前後で社会人で大学院行ったり、通信教育とか色々やってたから、それも子どもをもたないのにかなり影響した。 ・北海道は自由だから、子どもがいなくてもいいやって考えに至ったりする。

(2) 親からのプレッシャーや友達に対する憧れ、肩身の狭い思いなど

<男性グループ>

◎少なからず肩身の狭い感覚があるとかプレッシャーは相当あったという。社内結婚なので職場では言われたが、自分が原因でできないと嘘をついて言われないようにしていたり、社内で同じような環境の人は良き理解者になってくれたという話もあった。

◎子どもがいないと社会に甘えているような、子どもは他に任せて自分たちは好きなことをして社会的な責任を放棄しているような気になることもあるらしい。

◎憧れに関しては姪っ子を見ているとかわいいので自分の子どもだったらなおさらかわいいんだろうなどは思っているという。

<女性グループ>

◎身体が弱いことも知っているのでプレッシャーはない、北海道は親戚付き合いがあまりないので言われたい、という一方で、結婚したら家の繁栄のために子どもを産むのは当然と祖母から言われたり、職場でも若くして結婚したのだからと言われる場合もあるようだ。

<p>男性 20-49 才</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・姪っ子を見ていると可愛いとは思ふ。自分の子どもだとなおさら可愛いんだろうなと思う。 ・親も古いタイプなので子どもを育てて一人前だろうという考えが奥底にはあるとは思ふので少なからず肩身の狭い感覚はある。でも夫婦ともいい年になってきているので面と向かってそういう話はしない。 ・子どもがいないと社会に甘えている。子どもは他に任せて自分たちは好きなことするって社会的な責任を放棄しているような気になる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・プレッシャーは相当あった。兄も弟もすぐにぼんぼんできていたので。昭和の価値観からすぐにそういう事を言う。家内の親はおじいちゃんおばあちゃんになりたくないって感じだったので孫の顔が見たいとは一度も聞いた事がない。 ・家内と同じ職場だったので会社内でも言われた。結局、自分に原因があつてと嘘をついて周りをだまらせた。 ・会社の中にいる同じような生き方をしている先輩がよき理解者になってくれた。
<p>女性 20-49 才</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実家の祖母がとても古い考え方で、結婚したらあなたは相手の家の子どもだから、家の繁栄のために子どもを産むのは当然なんだから、身を粉にして働いて、子どもを作って子どものために尽くしなさいと言われる。 ・職場では、「若くして結婚したんだから・・・」などと言われるので、「はい、はい、かしこまりました。」とやり過ごす。 ・主人はもうすでに両親がいなく、私の母もいなく、父は私が体が弱いことを知っているので、圧やプレッシャーはない。主人に両親がいたら、また違っていたと思う。 ・そんなに肩身の狭い思いはしたことはありません。多少ちょっと言われててもかわします。北海道は親戚付き合いがあまりなく、その中でも希薄中の希薄なので、親戚にも言われたい。 ・主人は実家に1人で帰省する。

(3) 札幌市が夫婦のみ世帯の割合が多い理由

<男性グループ>

- ◎収入が低いことや、地域経済の景気が悪いこと、車なしでは生活できないのでその費用がかかるなど生計費が高いことといった経済的な問題。
- ◎病院も買い物も便利なので子どもがいないからといって老後の心配がない。
- ◎全道から仕事で集まってきているので仕事に傾倒している。
- ◎地方出身者が多いので子育ての時に頼れる親がおばにおらず預けるにもお金がかかる。
- ◎通勤時に子どもを抱えている人を見ると札幌で子育てするのは大変だと思う。という理由があがった。
- ◎希望する子ども数に至らない理由として、夫が転勤で単身赴任となり、サポートが足りずもう1人が産めないのではという声もあった。

<女性グループ>

- ◎札幌市は保育園の無償化も遅かったりと、支援が足りないので実家の協力を得られる確証がないと子どもを産めない。
- ◎北海道は自由だから、子どもがいなくてもいいと思える。

<p>男性 20-49 才</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・金銭的な問題が大きい。収入的な問題で子どもを育てる環境として厳しいのかな。 ・子どもがいないから老後が心配という事もない。病院も買い物も札幌は恵まれている。 ・全道から人が集まってきて仕事に傾倒している人が多いのかな。 ・なぜこんなに晩婚化が進んでいるのかっていうのが大事。
	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、景気が悪いからでしょ。と思う。 ・生計費が札幌にいと高い。同じ給料なら田舎にいた方が安定する。 ・地方から来ている人が多いから、共働きだと子育ての時に頼れる親がいないからお金をかけて子どもを預ける。 ・田舎で子育てしている人ののびのび感がすごい。札幌で子育てするの大変そうだなって、通勤時、子ども抱えてバス乗ってる人見て思う。 ・都会と言って車なしでは生活できない。かかるものは軒並みかかってくる。 ・札幌にいても転勤があつて単身赴任を強いられる。実質母子家庭状態で夫の手が借りれないのだったら他に借りる手があればもう1人産める。
<p>女性 20-49 才</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どものために自分を犠牲にしたくないという人が増えてきた。子どもを産んだとしても自分に使う月々の最低限のお金だけは残しておきたいけど、収入が足りない。 ・夫婦双方の実家が何らかの手伝いをしてくれるという確信が持てないと産めない時代に札幌市はなっている。保育園や幼稚園の無償化も遅かった。他の地域に行けば、その地域で子どもを産んだり就職すると家がもらえるところもある。
	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道は自由だから、子どもがいなくてもいいやって考えに至ったりする。

(4) 夫婦のみ世帯が子どもを希望するための条件

<男性グループ>

- ◎仕事や共働きすることに影響せずに子育てができる育児環境と職場環境。
- ◎育休をとっても給料が下がらないこと。
- ◎早く結婚すること。(高齢出産にならないように)
- ◎子育て中の人のがのびのび子育てしていないと良いイメージを持ってないので、子育て中の人達に手厚くする制度を作る。

<女性グループ>

- ◎非正規雇用でも収入が増えること。
- ◎出産で一度仕事を離れても、元のポジション、収入が確保できる復職制度。
- ◎病児保育・時間に制限のない保育園。
- ◎産休中や育児休暇中も皆でフォローしあえる職場など、子供がいても安心して仕事ができる環境。
- ◎実家が近かったり親の手助けがないと収入があるだけでは難しい。

<p>男性 20-49 才</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちを優先しているので、仕事に影響しないで子育てができる環境が整っていれば。育児休暇とかは取れば給料が下がる。生活レベルを下げても子どもがほしいと思わない。 ・晩婚化対策。もう少し早く結婚していればもしかしたら違ったかもしれない。こんなに遅くまで結婚しないととは思っていなかった。したくないと思っていたのではなくて漠然と生きていたら 35 才になっていた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・共働きが成立しやすい勤務先というのが絶対的に不足している。 ・子育ての助成金の制度など、札幌が努力している事をもっとどんどん PR した方がよい。調べた人はわかるけどそうじゃない人はわからないではもったいない。 ・子育てをしている人が苦勞しちゃってるのが見えている。子育て中の人達に手厚くする。今子育て中の人達がのびのび走ってくれないとついていきたいと思わない。
<p>女性 20-49 才</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・収入が増える。個人的には非正規雇用の収入があがる。 ・出産で一度仕事を離れても、元のポジション、収入が確保できる。 ・病児保育が欲しい ・札幌は女性の残業もとても多いので、夜中までやっている保育園が欲しい。 ・パートの時間に合わせて保育園開ける。
	<ul style="list-style-type: none"> ・親と一緒に暮らしたり、実家の近くに住んで親に子育てを手伝ってもらえる。 ・奥さんが働かないで、子育て専念できる環境があれば ・主婦も働きやすい職場で、産休中や育児休暇中も皆でフォローしあえる職場になるとよい ・職場、旦那、親など皆のフォロー体制が整っていること ・就業時間が長く、拘束時間も休日出勤も多く自分に余裕がないと、結婚、子どもを産むのは難しい。ただ収入があるだけでは難しい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園、幼稚園の時間的な制限を緩和する。

全グループ共通の質問項目の結果

札幌市からの支援事業内容やお知らせ方法の参考情報として、参加イベントとリーチメディアについて聞いた。(各グループのインタビュー冒頭でウォーミングアップを兼ねて聞いた)

(1) 参加して楽しかったイベントや場所、リーチメディア

◎季節のイベント、地域のイベントが多く挙げられた。クチコミやTwitterなどのSNSで知ることが多いようだ。幼稚園や学校からの配布物もリーチする媒体のようだ。

◎自分の好きなアーティストのライブやスポーツチームの試合は公式サイトなどでチェックしている。

独身者グループ

	イベントや場所	楽しかったこと	リーチメディア
男性 18-35 才	琴似駅の家具屋さん	良いものが安く売っていた	親
	旭川の雪まつり ひまわりフェスティバル	中程度の規模が良い 日本一の敷地面積なので	Twitter
	旭川の雪まつり	高校時代の友達と行ったので	Twitter
	流氷 (ガリンコ号) 流氷祭り 秋田県男鹿半島	初めて流氷を見た ナマハゲ	ホームページ 仕事 (教師)
	網走 流氷	久しぶり	親戚
	オータムフェスト		Twitter タイムライン
	Bz ライブ		公式サイト
	日ハムの試合	試合が楽しい	球団公式サイト
男性 36-49 才	ヨガ教室	身体が軽くなった	Facebook
	ビックサイトのツーリズム EXPO	その土地のものを試飲や試食 できる	ビックサイトで検索
	BBS 運動ボランティア活動		知人からの勧誘
	基本的にでかけない。お金 がない。家とジムの往復		ネット、テレビ
女性 18-35 才	雪まつり	スノーボードやプロジェクシ ョンマッピング	テレビのニュース
	層雲峡氷瀑まつり 藻岩山ロープウェイ		SNS 新3大夜景のチラシ
	PMF 円山動物園	リハーサルとか見れたので 毎年行っているけれど毎年ど こか新しくなっている	友人 仕事 (幼稚園)
	ロサンゼルス E3 ゲーム市 場	色々なゲームを体験できた	仕事関係

	好きな声優のサイン会		Twitter、SNS
女性 36-49 才	みんわらウィーク		Google 検索（札幌、イベント、おすすめ、参加、コンサート）
	みんわらウィーク		札幌吉本で検索
	市民合唱祭		昔から行っている合唱で検索する
	ゴールデンマーケット	毎年行っている	テレビ

有配偶者グループ

	イベントや場所	楽しかったこと	リーチメディア
男性 20-35 才	雪まつりつどーむ	初めての体験	知人 SNS は Twitter か LINE
	小樽水族館	イルカ、大人になってはじめて	
	雪まつり	プロジェクションマッピング	テレビ 幼稚園等の配布物
	行っていない		SNS、基本妻まかせ
男性 36-49 才	ディズニーランドには毎年行けたら行っている		ネットでブログやイベント情報を見ている
	大通り公園のベンチの塗り替え	子どもと好き勝手にできる	知人
	コンサドーレの試合		テレビや友人
	地元の学校の雪像のお祭り	グラウンドでチューブタイヤの滑り台	広報さっぽろ
	トミカプラレール博		幼稚園でもらった広告
	定山溪帯広	義父と飲んだ事 食べ歩き	ネット検索
	アーティストのコンサート車の展示会イベント		展示会イベントは仕事とも関係 ネット検索
女性 20-35 才	サロン・ド・ショコラ	試食	Instagram、ポスター、クチコミ
	雪まつり	屋台多くて寒くて雪像なかった	
	トドックステーション	子連れにも安心	児童館のクチコミ
	競馬場		LINE 登録すると毎週イベント情報がくる
	競馬場	100 円ですごく遊べる。送迎	

		バスもある。	
	競馬場	プリキュアのショー	チラシ、うちわ
	仮面ライダーライブショー	クオリティが高かった	ネット検索 ライダーショー
	オクトバーフェスト ミュンヘンクリスマス市		ドイツの事を調べていて 知ったネット、学校の先生
女性 36-49 才	大学のオープンキャンパス	旅行半分なので	
	チカホ雪だるまイベント 雪まつりスケート	子どもが喜んでいて	会員サイト 幼稚園
	雪まつりつどーむ	昔を思い出した	
	太鼓の発表会ドンドコライブ 寿都スキー場		幼稚園 友人
	釧路湿原のSLを乗りに行った。	地元の人が温かくて、料理もおいしい。	JRに置いてあるチラシ、 広告

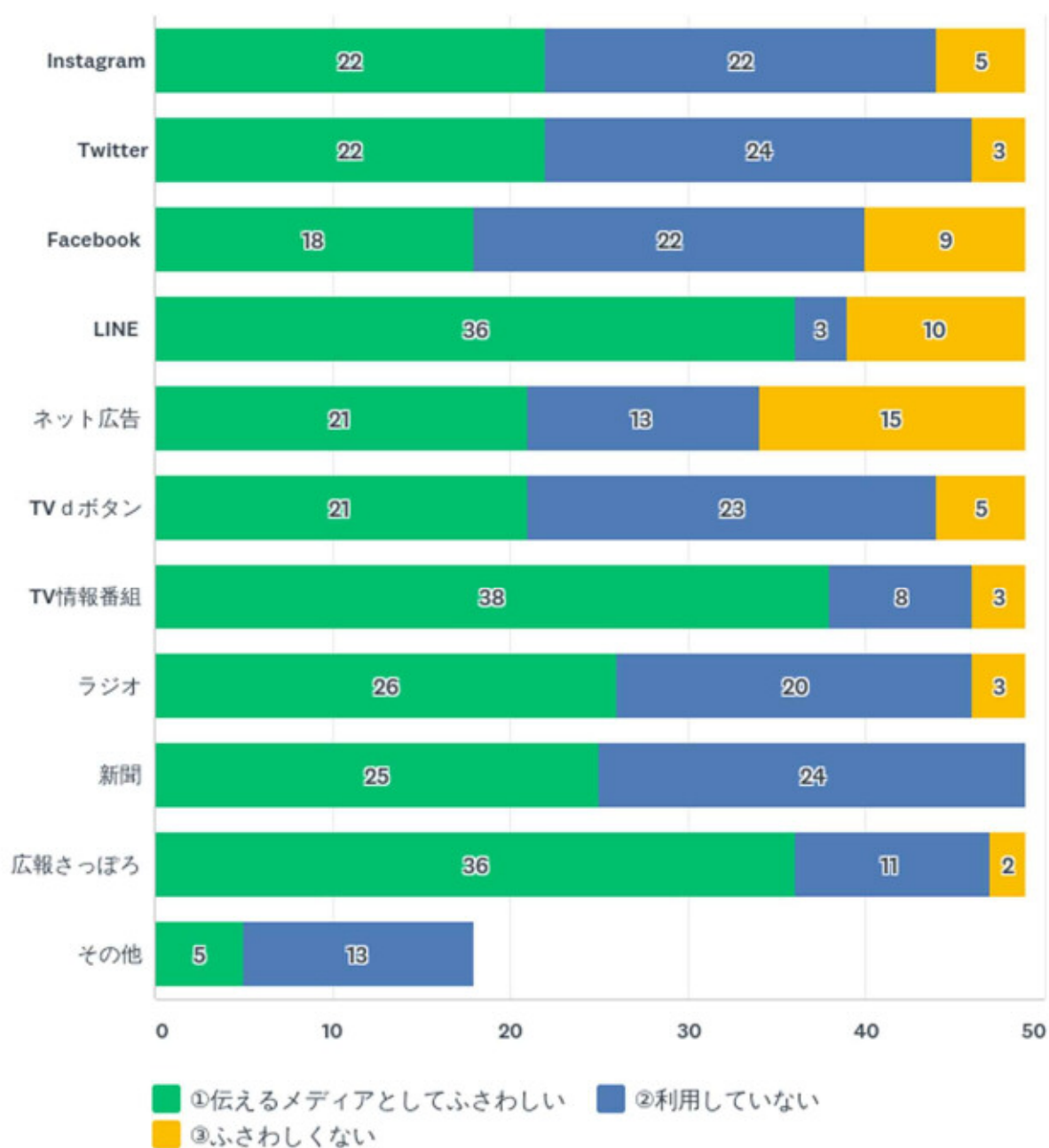
(2) メディアについて (集合後のペーパーアンケート結果)

札幌市からのお知らせとしてふさわしいかどうかを、インタビューの開始前の待ち時間でアンケートにお答えいただいた。

◎ 1位はテレビの情報番組。わかりやすい、目につきやすいなどがその理由。

◎ 2位はLINEと広報さっぽろ。LINEは多くの人が頻度高く利用している点が適しているが、一方プライベートの連絡手段の場合が多いので適さないのではという指摘もあった。広報さっぽろは市民全員に届く、信ぴょう性があるなどがその理由。見る人が少ないのではという声もあった。

◎ インタビューでは札幌市からのイベントや補助金のお知らせについては男性グループからは通勤中の地下鉄や駅構内の広告が良いのではといった意見もあった。



<各メディアに対する自由記述>

#	COMMENTS FOR "INSTAGRAM"
1	写真などで札幌市の今を伝えるのに向いていると思う。
2	インスタグラムをしようしている方は多いと思うので、多くの人の目にとまると思います。
3	男女比が女性のほうが多すぎる気がする
4	若者しかやっていないので
5	気がついたものはいつも見るから
6	身近で伝わりやすい
7	よく利用しており、見る頻度が高いので。現在はあやしい美容系のものも多いので出し方は変えたほうが良い。
8	目にすることが多いから
9	自分が一番利用しているSNSであり情報としてすぐ見れる
10	瞬時に情報が入る
11	よく見てる
12	札幌市をフォローするつもりはない
13	使っている人が多いのではないかと
14	世界的に行っているため
15	よく利用するから
16	よく目につくから
17	スキ間時間に見ていて利用しやすい
18	ラインの次によく使うので目につきやすいと思う
19	気になる情報を検索する
20	インスタグラムは利用していて一日に一度は見るので使いやすい
21	目に付けば見ます。
22	詳しくは見ないため(流し見程度)
23	できるだけ広範囲に伝えるべきだと思うから。

#	COMMENTS FOR "TWITTER"
1	今すぐ伝えたい情報を見られて便利
2	ツイッターも多くの人が使用しているSNSの1つだと思うので、多くの人の目にとまると思います。
3	利用者が多い
4	リアルタイム性があるので
5	よく使うため
6	広い情報が利用できる
7	気がついたものはいつも見るから。たくさんシェアされているのは気がつくから
8	他の情報にまぎれるため
9	やっている年齢が若め 利用人数が多いから
10	今や過去の情報を知れる
11	見逃してしまいがち
12	個人的にほとんど利用していない
13	世界的に行っているため
14	よく利用するから
15	自然と流れてくるから
16	手軽に見れて便利だと思う
17	気になる情報を検索する
18	ツイッター利用しているが数日に一度は確認するので使いやすい
19	育休の時に、子育てに役立つツールだったため（他の親との交流等）
20	目に付けば見ます。
21	1番見る時間が多い

#	COMMENTS FOR "FACEBOOK"
1	利用はしているが、あまり活用をしていないので
2	若い人で使っている人が少ない
3	利用者が限られているので
4	自身は利用していないが、広く普及しているため
5	比較的幅広い年代が利用しているため
6	個人間でパーソナルなやりとりを目的としたものであり市からの情報であれば少しかたいイメージがあるため
7	他の情報にまぎれるため
8	利用人数は多いが若者はやってる人が少なめ
9	40代の方が利用を多くしており、見る頻度が高いと思うので。
10	目にすることが多いから
11	利用している人が多いので伝わりやすそう
12	様々な自治体がフェイスブックページを利用している。市の紹介などならいいと思う。
13	よく見る 聞く
14	定期的に見る 情報がうけとりやすい
15	よく利用しているから
16	最近活用している人が少ないのではと考えているため
17	世界的に行っているため
18	利用している人が多いから。使いやすい。
19	毎日かさかさ見てるからお知らせがきてもすぐ情報が入ってくる為
20	利用はしているがあまり見ないため
21	ニュースフィールドに紛れてしまい、目につかないこともあるので重要な情報発信には向いていないと思います。いつもチェックしている若年層には良いと思います。
22	目に付けば見ます。
23	広告のような記事は□□□□□してる
24	できるだけ広範囲に伝えるべきだと思うから。

#	COMMENTS FOR "LINE"
1	多く利用しているので
2	個別に情報を見られて楽
3	主なSNSの利用はLINEなので、安全な方法であれば良いと思います。
4	老若男女問わず利用しているので
5	自身は利用していないが、広く普及しているため
6	アカウントを追加したくないため
7	利用者が多いから
8	民間の1企業がやっているもので決して公共性があると思えない
9	LINEは連絡するのに、しょっちゅう見ているから気軽にお知らせを見られる
10	使用者が多いと思うので
11	比較的幅広い年代が利用しているため
12	よく見るので伝わりやすい
13	個人間でパーソナルなやりとりを目的としたものであり市からの情報であれば少しかたいイメージがあるため
14	身近で伝わりやすい
15	よく利用するので
16	個別のチャットなら気づきやすい
17	やっている年齢層が広め
18	情報が流出しそうなので。
19	通知でとどき、わかりやすい
20	いつも見るから
21	幅広い世代の人がLINEアカウントを持っているのでふさわしいと思う
22	友達に追加しておくとか何かお知らせがあれば一番先に目に入る
23	震災の時に情報が一番早く伝わるに使ったので
24	よくさわる
25	友人、家族以外つながっていない
26	通知を切らなければ必要な情報を素早く得られると思う
27	一番身近なSNSのため
28	友達登録しないと見られないものは特定の人にしか伝わらない
29	身近なツールだから
30	利用している人が多いから。使いやすい。
31	一番手っ取り早く情報をとれるから。(1日に何度も利用するため)
32	一番使う
33	1番使うツールなのでラインでお知らせがきたら便利だと思う
34	ラインは個人的な連絡手段という感じがするため
35	プライベートの連絡手段として利用したいから
36	ラインが連絡手段なのでライン友だちやタイムラインなどで更新してほしい

37	あまり利用していないため
38	目に付けば見ます。
39	個人的なつながりのみ 利用を限定している
40	できるだけ広範囲に伝えるべきだと思うから。
#	COMMENTS FOR "ネット広告"
1	インターネットは必ずしも見ないので
2	興味がない広告は見ない
3	ネットサーフィンをしている層に働きかけても効果は薄いと思われるし。特に高齢者はネット以外の媒体が望ましい
4	知らず知らずのうちに見ているので気軽に見られるので良い
5	ネット利用者なら広告は嫌でも見るので
6	目にする機会は多そう
7	たくさんの人が見ると思うのでふさわしいと思う。
8	見られない可能性が高い
9	よく利用するので
10	ネットを見る人が多いのでいいと思う
11	目に入りやすい
12	札幌市のことをアピールする場が多いほうが良い
13	わかりやすい
14	いつも見るから
15	ネット上の広告となると、どのサイトに載せるのかによって印象が違ってしまう
16	ネット検索の時に目につきやすい
17	目に付く内容ならみと思う
18	他の広告などでPOP UPされて邪魔(不便)なことが多い
19	目に入りやすいと思う
20	良い印象ではない。
21	1日に何度も利用する中で流れてくると見ようと思えると思う。
22	インターネットを見ているときに自然と目につきやすいと思う
23	ネットの広告は出てきたり、出てこなかったりするため本当に知りたい時にポップアップが出てこないため
24	まず初めにネットで調べたり、情報を確認する
25	そんなにネット広告は見ない
26	目に付けば見ます。
27	疑わしい広告も多いため
28	できるだけ広範囲に伝えるべきだと思うから。
#	COMMENTS FOR "TVポタン"
1	知りたいことをより詳しく見られて良い
2	個人的にTVはあまり見ないので
3	CM中等のつなぎとして
4	気軽に見れるので
5	たくさんの人が見ると思うのでふさわしいと思う。

6	自分で選ぶことができるため必要と判断すれば取り入れることができるため。公共性の高いものであるため情報の信頼(信用)が高くなるため。
7	見る人が少ない
8	目に入りやすい
9	子供はボタンを押したがるのでクイズなど取り入れても楽しく見れそう。
10	見たいときにいつでもみれるから
11	スマホを持っていない人も見れる
12	幅広い世代へのお知らせ。特に高齢者の方の目にも触れやすいと思う
13	わざわざ使わない
14	投票の際はすぐに数値化できるため
15	あまり見ようとする人はいないと思う
16	天気予報を見るときにボタンを使用していて、そのときに目がとまるかも
17	目に付けば見ます。
18	できるだけ広範囲に伝えるべきだと思うから。
#	COMMENTS FOR "TV情報番組"
1	多く利用しているので
2	かんたんに
3	不特定の人達が見れる状況なので危険かなと思います。
4	顔が見える
5	印象に残りにくい
6	毎朝何らかの情報番組をテレビで見ているので目につきやすい
7	テレビさえ見ていれば情報が得られるから
8	幅広い年代が見ると思うので。
9	たくさんの人が見ると思うのでふさわしいと思う。
10	自分で選ぶことができるため必要と判断すれば取り入れることができるため。公共性の高いものであるため情報の信頼(信用)が高くなるため。
11	多くの人が目にする
12	朝夕の情報番組をみるので
13	目に入りやすい
14	わかりやすい
15	テレビを見る人が多いから
16	幅広い世代へのお知らせ。特に高齢者の方の目にも触れやすいと思う
17	じっくり見る時間はないが重要なお知らせなどはテレビが一番信用性がある
18	気軽にうけとりやすい 視覚的に情報をうけとれる
19	毎日見るため
20	一番インパクトはありそう
21	流し見してるだけでも記憶に残ったりすると思う
22	情報が一番わかりやすい (解説等もあるため)
23	テレビをつけてることが多いから。
24	テレビを見る人だったら誰でも目にすると思うため
25	自宅にいる時だけにはなるけど1番わかりやすいと思う

26	夕方、ご飯作りをしながらかけていることが多く目に止まりやすいです
27	どさんこワイドを見ていて、札幌市内の情報をたくさん得れる
28	テレビを見る機会にお知らせしていれば良いがタイミングよく見られるか疑問
29	ローカル番組で地域密着の情報であれば
30	目に付けば見ます。
31	どの番組かによると思います（ローカル番組はあまり見ない）
32	できるだけ広範囲に伝えるべきだと思うから。
#	COMMENTS FOR "ラジオ"
1	多く利用しているので
2	匿名であれば良いかと思います。
3	ラジオを視聴する人は少ないので
4	自治体広告の定番として
5	他の作業と並行して利用しやすい
6	公共性が高い媒体だと思われるから
7	ラジオだと若い方は聞かない方が多いから
8	普段あまりテレビ見ない方にも
9	目が見えない方にも伝わるのでいいと思う。
10	自分で選ぶことができるため必要と判断すれば取り入れることができるため、公共性の高いものであるため情報の信頼(信用)が高くなるため。
11	多くの人が利用する
12	仕事中の車内で聞くので
13	持っている人が少ない
14	最近運転中によく聞くので、札幌だと運転する女性も多いと思うので。
15	わかりやすい
16	車でラジオを聞いて情報を得ることがあるから
17	聞いている人が限定的になってしまいがちですがラジオの聞く人にとって（例えば目の見えない方）への周知はしやすいと思う
18	テレビを観るよりラジオを聴くほうが多い方（ドライバーの方など）が日常的に利用しやすい
19	利用者は少ないのでは？（特に若年層）
20	流し見してるだけでも記憶にのこったりすると思う
21	どこでも聞く事ができる
22	運転中、主人がよくラジオを聞いています。仕事の方への情報発信には向いていると思います
23	ラジオは車に乗っているときに聞く
24	聞く頻度がテレビよりも多いため
#	COMMENTS FOR "新聞"
1	多く利用しているので
2	自治体広告の定番として
3	毎日情報がある
4	公共性が高い媒体だと思われるから
5	普段あまりテレビ見ない方にも
6	高齢者の方も見るのでいいと思う。

7	自分で選ぶことができるため必要と判断すれば取り入れることができるため。公共性の高いものであるため情報の信頼(信用)が高くなるため。
8	多くの人が利用する
9	年配の方向けに大きな字でお伝えするのも良いかも。
10	新聞を見る人が多い
11	新聞全社に載せるのであれば、より効果的なのではないか
12	やはり一番使われているものだと思う 情報量は一番掲載できると思う
13	信憑性がある
14	利用者は少ないのでは？ (特に若年層)
15	特定の地域(都道府県)や全国のことが分かるため
16	忙しくてじっくり見る時間がないがイベント情報や市に関するものはよくチェックしています
17	新聞はとっていないが出先などで置いてあると見るので
18	できるだけ広範囲に伝えるべきだと思うから。
#	COMMENTS FOR "広報さっぽろ"
1	多く利用しているので
2	冊子が好きだから
3	匿名であれば良いかと思います。
4	自治体広告の定番として
5	地元のことは詳しい
6	公共性が高い媒体だと思われるから
7	手に取る機会があれば
8	高齢者の方も見るのでいいと思う。
9	自分で選ぶことができるため必要と判断すれば取り入れることができるため。公共性の高いものであるため情報の信頼(信用)が高くなるため。
10	市民全てに伝わる
11	目についた時は読むので
12	見る人が少ない
13	情報量が多いのでより写真を使ったりページをめくった時の代わり感があると伝わりやすいかも。
14	よくみるので
15	読むことが多い
16	若い世代の人はあまり見ないのではないのでしょうか。マンションのチラシ受けの収集箱にそのまま捨てられているのを見ます。
17	各家庭に配布されているのであれば保管はしやすい。緊急なお知らせには向かない
18	信憑性がある
19	市の情報が一番詳しい。自分の地域のことがわかる。
20	届いた時には目を通すから。
21	札幌市のイベントなどを知りたい時によく見るので良いと思う
22	広報札幌は自ら冊子をもらいに行かなくても自宅に届くため、必要な情報を得やすいです
23	ふりっばーなどよく見るので有りがたい
24	目に付けば見ます。
25	中央区なのに白石区の版が届くためあまり読んでいない

26	できるだけ広範囲に伝えるべきだと思うから。
#	COMMENTS FOR "その他"
1	公共機関のチラシ、ポスティング、中ぶり
2	高齢者の方も見るのでいいと思う。
3	使えるものは全て利用する方向で。だが全てに同じものではなく、それぞれのメディア毎に内容を選んで利用すべき。SNS、新聞、TV、広報等それぞれ見ている。年代だけでも違いが大きい。
4	スーパーや幼稚園、小学校、児童館にポスターを掲載していただけると子育て世代の主婦はよく目につきます
5	雑誌
6	できるだけ広範囲に伝えるべきだと思うから。

5. 総括

(1) 未婚率が高い理由（結婚の阻害要因）

●札幌市の特徴

- ・親や周りから家を守るために結婚をすすめるというようなプレッシャーがほぼなく、周りも独身者も多いので焦ることもあまりない。1人であれば収入・遊び・友達といった面で十分充実した生活を送ることができ、周りのうまくいっていない結婚や離婚も見て、無理に結婚しなくても良いという考えが強まる傾向がうかがえた。
- ・札幌への進学・就職のため地方出身者が多いが、独身にプレッシャーのある地方に帰らず、職もあり、余暇も充実できる札幌に独身者が留まることも要因としてあげられそうだ。
- ・住宅購入を考える際に、土地が安く補助もあり、札幌に通勤できる近隣の市町村にファミリーが転出していくので独身率が高まっている可能性もある。
- ・また、男性はすすきのなど遊ぶところもたくさんあり、女性も生活に困らないので結婚という逃げ道を考えないのではないかという意見もあった。

●男女共通の阻害要因

- ・出会いがないこと、気楽な生活や旅行や趣味など遊びを優先させたいこと。
- ・結婚後にかかる生活資金が漠然としており、どれくらいの補助があるのかも知られていない。
- ・インターネット、スマホでいつでも二次元、バーチャルなど楽しいことが満たされ、外にも出かけなくなる。

●男性の阻害要因

- ・経済的なことは主たる要因で、結婚するには今の収入では低いと思っている男性は、恋愛交際に対してもいまひとつ積極的になれず、出会うための活動もしなくなってしまう。特に30代後半から40代の男性は新卒の時に就職氷河期にあたっており、派遣の規制自由化などの背景もあって非正規雇用での採用の割合も多かったが、その後の正社員への転職は難しく、今も結婚できるほどの収入にアップできていないということもあるようだ。
- ・女性にモテた経験のない男性は、出会ったとしても男性は選ばれる側であり、見た目ではじかれてしまうと思ってあきらめてしまっている。女性と出会った後の交際の進め方がわからない人も多いようで教えてほしいという声もあった。
- ・一方、収入がある男性は、仕事が忙しくて時間がとれない、と二極化している現状があるようだ。

●女性の阻害要因

・仕事のキャリアを積むために結婚を後回しにしたり、出会いのためのいろいろな方法を面倒・怖い・無駄と思って利用できていないことがあげられた。

・一方、待っていても男性の方からは来ないからと積極的に活動はするが、求めるレベルが高く結婚に至らない場合もあるようだ。

・結婚を希望しない場合は、両親や周りの例から結婚に良いイメージを持てていなかったり、男子からのいじめ経験が後を引いているなど。

(2) 結婚を促進するための取組の方向性案

① 出会いの場創出

・婚活パーティには行けない層をターゲットに、婚活支援をうたわず、共通の趣味や共同作業など継続して何度も会えるような、独身者が1人でも参加しやすい場作り。札幌市のさっぽろ JOIN CAFÉ も行政主催なので安心、内容も興味があると好評だったが、開始日時など多くの人に参加できるよう改善をする。

・ピアール方法も電車の中吊りやLINE などを利用するなどターゲットに届く方法で告知してほしいという声も聴かれた。

・カーリングやボルダリング、フットサルなどの流行りのスポーツ、チームスポーツ、食に関わること、夜景を見るイベント、25才式などさまざまなアイデアが出た。

② 恋愛・交際に積極的になるための支援

・コミュニケーションアップセミナー（恋愛・交際の進め方、見た目改善）

・良いところを指摘しあう研修（社内・社外）

③ 結婚・出産・子育てに関わるお金と補助金などの理解促進

④ 交際の進め方がわからない、自信がない人をターゲットとした1対1のマッチング。会話のお手伝いをするような推進員がフォローする。（愛媛県の事例参照）

(3) 出生率が低い理由（希望子ども数に至らない理由、阻害要因）

●札幌市の特徴

・平均所得が低い割に車が必要だったり光熱費、税金が高いなど出費が多く、資金に余裕がない。たくさんの習い事をさせたいという傾向や、大学への進学を考えるとお金が足りず希望子ども数に至らない。

・大学卒が多いこともあり晩婚化、初産も遅めで年齢的にリスクが出てきて出産数が減る。

- ・住宅購入の機会に土地が安く補助もある近隣市町村に転出するファミリー層がおり、結果出生率が下がる。
- ・結婚へのプレッシャーと同じように、親戚づきあいも少ない土地柄なのでそれほど強いプレッシャーはないようだ。

●子育て上の阻害要因

女性に関わることが大半を占める。

- ・3歳までのかわいい成長を見届けたいので保育園に預けず専業主婦になり、収入が減る。
- ・職場の理解がない。子どもが病気の時や産休育休など休みがとりづらい。
- ・病児後保育が利用しにくい、利用できないことが多い。非正規雇用の場合、休むと収入が減る。労働時間数も減るため保育園の条件を満たさないことになる。
- ・保育園の利用料が高くパート代と見合わないので利用できない、就職活動では預けられない。
- ・女性がフルタイムの場合、保育園に預けたとしても仕事に影響が出てしまうようで、両立していくには希望数を減らす場合があるようだ。
- ・両親の手伝いが期待できないなど子育てを1人でしなければならない
- ・この先いくらかかるのかわからないのに怖いので調べず漠然と希望数をあきらめる場合と、保険会社等がかかる金額だけを聞いて希望数をあきらめる場合がある。札幌市の補助や奨学金についても調べていないケースもあり、見通しを立てずに不安だけで希望数を減らしてしまっている。

(4) 出生率を向上するための取組の方向性案

- ① 保育園の待機児童解消と無償化
- ② 誰もがいつでも利用できる病児保育の実現
- ③ 育休・産休、子どもが病気の際の休みなどを取りやすい職場環境づくり
- ④ 復職制度の普及
- ⑤ 非正規雇用の給与水準アップ
- ⑥ 男性の育児参加啓蒙、両親学級などは参加しやすい日時に行う
- ⑦ かかるお金ともらえるお金（手当や補助金など）、利用できる制度（奨学金など）がわかりやすい資料を作り、結婚届時や子どもの検診時などに配布する。経済的な不安を少しでも払拭する。
- ⑧ 通学定期や高校の給食など、子育て世帯の出費や負担を軽減する市ができる支援
- ⑨ 不妊治療の医療費補助

以上